

別冊

鳥取県に関するイメージ調査(概要)

2017年3月

 鳥取県

目次

I. 調査概要	
1. 調査概要	2
2. 対象者プロフィール	3
II. 調査結果	
1. 鳥取県への訪問経験・鳥取県のイメージについて	
1-1. 鳥取県への訪問経験	7
1-2. 『鳥取県』と言われて連想されるもの	8
1-3. 鳥取県の色	9
1-4. 鳥取県に対するイメージ	10
1-5. 鳥取県に最も当てはまる県のイメージ	11
1-6. 鳥取県の天候に対するイメージ	12
2. 鳥取県の話題・特産物・観光地について	
2-1. 見聞きしたことのある鳥取県に関する話題	14
2-2. 鳥取県の「特産物」の認知・食用経験・食用意向	15
2-3. 鳥取県の「観光地等」の認知・訪問経験・訪問意向	19
2-4. 鳥取県の魅力点と魅力不足点	23
2-5. 鳥取県の魅力向上に必要な分野	24
2-6. 鳥取県に関する主な情報入手経路	25
2-7. 鳥取県について得たい情報	26
3. 鳥取県中部地震の被害について	
3-1. 人・建物・農業・水産業への被害	28
3-2. 地域別の被害	30
3-3. 被災地の現状	31
4. 鳥取県への訪問意向について	
4-1. 鳥取県への訪問意向	33
4-2. 鳥取県への非訪問意向理由	34
4-3. 鳥取県への訪問時の主要目的	35
4-4. 鳥取県への訪問意向ランキング順位	36
4-5. 鳥取県の満足度	37

1. 調査概要

- 調査目的 首都圏など14都府県在住者を対象に、本県のイメージや地域資源の認知度、観光・余暇等を把握する。
- 調査名 「鳥取県」の観光に関する、14都府県調査
- 調査地域 ①首都圏(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県) ②関西圏(大阪府・兵庫県・京都府)
③中京(愛知県) ④中国・四国(広島県・岡山県・愛媛県・香川県・徳島県)
⑤九州圏(福岡県)
- 調査方法 インターネット調査
- 対象者 上記エリアに居住する、10代以上の男女個人
- 回収数 5,400サンプル
①首都圏(2,400) ②関西圏(900) ③中京(300)
④中国・四国(1,500) ⑤九州圏(300)
- 実施期間 2017年2月3日(金)～2月9日(木)
- 実施機関 大手インターネットリサーチ会社

2. 対象者プロフィール①

		エリア(居住地)														(%)	
		東京都	神奈川県	埼玉県	千葉県	愛知県	大阪府	兵庫県	京都府	広島県	岡山県	香川県	徳島県	福岡県	沖縄県		
		(n)															
2013年全体	(5400)	11.1	11.1	11.1	11.1	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	
2014年全体	(5400)	11.1	11.1	11.1	11.1	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	
2015年全体	(5400)	11.1	11.1	11.1	11.1	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	
2016年全体	(5400)	11.1	11.1	11.1	11.1	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	

		性別		年代						(%)	
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上		
		(n)									
2013年全体	(5400)	49.9	50.1	9.3	23.6	17.1	16.7	16.7	16.7	16.7	
2014年全体	(5400)	50.0	50.0	6.6	26.2	17.1	16.7	16.7	16.7	16.7	
2015年全体	(5400)	49.8	50.2	6.8	26.0	17.2	16.7	16.7	16.7	16.7	
2016年全体	(5400)	49.8	50.2	8.4	24.0	17.5	16.7	16.7	16.7	16.7	
エリア	首都圏	(2400)	50.0	50.0	8.1	25.3	16.7	16.7	16.7	16.7	
	関西圏	(900)	48.8	51.2	14.2	19.1	16.7	16.7	16.7	16.7	
	中京	(300)	50.0	50.0	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	
	中国・四国	(1500)	50.0	50.0	3.8	26.4	19.8	16.7	16.7	16.7	
	九州圏	(300)	50.0	50.0	9.0	24.3	16.7	16.7	16.7	16.7	

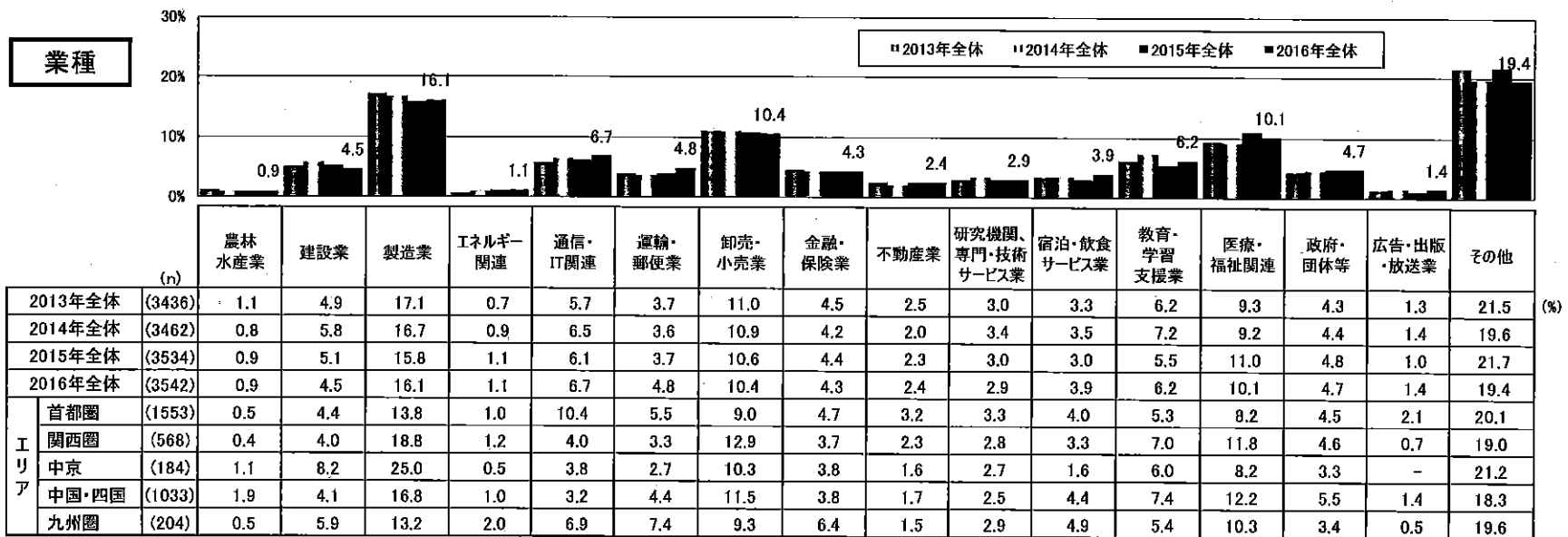
【対象者: 全員】

【対象者: 全員】

2. 対象者プロフィール②

職業		(n)									(%)
		自営業	全社役員・団体役員	会社員	パート・アルバイト	学生	専業主婦/主夫	無職	その他		
2013年全体	(5400)	6.4	2.6	34.3	12.4	10.7	16.7	9.0	2.1		
2014年全体	(5400)	5.9	2.3	35.3	12.4	9.4	16.6	9.9	2.2		
2015年全体	(5400)	6.1	2.2	36.7	12.6	9.4	15.7	9.5	2.4		
2016年全体	(5400)	5.7	1.8	36.6	12.6	10.4	14.9	9.2	2.3		
エリア	首都圏	(2400)	4.8	2.0	39.0	11.8	10.4	16.2	8.7	2.5	
	関西圏	(900)	6.7	1.9	31.9	14.3	15.2	12.6	9.1	2.1	
	中京	(300)	8.3	1.3	33.7	10.0	16.0	15.3	7.3	1.3	
	中国・四国	(1500)	6.2	1.7	35.7	13.1	6.3	14.3	10.6	2.3	
	九州圏	(300)	5.0	1.7	39.3	13.7	10.7	13.7	7.7	2.7	

【対象者:全員】



【対象者:有職者】

2. 対象者プロフィール③





世帯年収		%							
		~100万円未満	100万円以上~ 200万円未満	200万円以上~ 300万円未満	300万円以上~ 500万円未満	500万円以上~ 700万円未満	700万円以上~ 1,000万円未満	1,000万円以上~ 1,500万円未満	1,500万円以上
2013年全体	(5400)	8.2	16.9	27.2	18.9	17.1	8.0	2.8	
2014年全体	(5400)	10.0	18.7	28.0	18.6	14.2	8.1	2.6	
2015年全体	(5400)	8.3	19.7	26.6	19.5	15.8	8.3	2.7	
2016年全体	(5400)	7.5	17.2	27.6	22.2	15.2	8.5	2.8	
エリア	首都圏	(2400)	6.8	14.4	26.4	20.8	17.0	10.0	3.7
	関西圏	(900)	9.2	18.4	27.9	19.0	14.6	7.4	1.7
	中京	(300)	7.0	14.3	22.0	24.7	17.7	10.7	3.7
	中国・四国	(1500)	7.1	20.9	30.2	26.4	12.6	6.9	1.9
	九州圏	(300)	10.3	19.3	29.0	19.0	13.3	6.0	3.0

【対象者：全員】

II. 調査結果

1. 鳥取県への訪問経験・鳥取県のイメージについて

※数表内の網掛け

	2016年全体値より10%以上高いもの
	2016年全体値より5%以上高いもの
	2016年全体値より5%以上低いもの
	2016年全体値より10%以上低いもの

但し、N=30未満は除く。

(以降のページも同様。)

1-1. 鳥取県への訪問経験

- ◆ 訪問経験率は、この4年間でそれほど変化はなく、半数弱で推移している。
- エリア別でみると、関西圏《大阪府・兵庫県・京都府》と中国・四国《広島県・岡山県・愛媛県・香川県・徳島県》、両エリアの訪問経験率は7割前後で、他エリアに比べて高い。一方、首都圏《東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県》や、中京《愛知県》、九州圏の訪問経験率が相対的に低い。特に首都圏では3割弱にとどまる。
 - エリア×年代別では、総じて各エリアとも年代が上がるほど、訪問経験率も上昇するという傾向がみられ、特に60代以上で顕著となっている。

Q5. あなたは、鳥取県を訪れたことがありますか。(ひとつだけ)

訪問経験あり or 居住経験あり計

訪問経験あり or 居住経験あり計

	(n)	訪れたことがある			48.8
		訪れたことがある	居住経験あり	一度も行ったことがない	
2013年全体	(5400)	48.1	17	51.2	48.8
2014年全体	(5400)	48.9	18	50.3	49.7
2015年全体	(5400)	47.2	12	51.7	48.3
2016年全体	(5400)	46.8	17	52.4	47.6
エリア×年代					
首都圏	(2400)	26.7	4	72.9	41.4
10代	(194)	8.8	0	91.2	39.2
20代	(606)	20.5	3	79.2	33.2
30代	(400)	21.0	15	78.5	33.7
40代	(400)	25.5	7	74.5	34.4
50代	(400)	31.5	19	67.8	39.2
60代以上	(400)	47.0	18	52.3	39.4
関西圏	(900)	66.3	18	32.9	47.1
10代	(128)	40.6	18	58.6	41.4
20代	(172)	58.7	12	40.1	50.0
30代	(150)	61.3	17	38.0	52.0
40代	(150)	76.7	17	22.7	57.6
50代	(150)	73.3	0	26.7	70.0
60代以上	(150)	84.7	13	14.0	88.0
中京	(300)	32.7	17	66.7	48.0
10代	(50)	24.0	10	74.0	36.0
20代	(50)	20.0	10	78.0	36.0
30代	(50)	28.0	0	72.0	36.0
40代	(50)	48.0	0	52.0	48.0
50代	(50)	36.0	0	64.0	36.0
60代以上	(50)	40.0	0	60.0	40.0

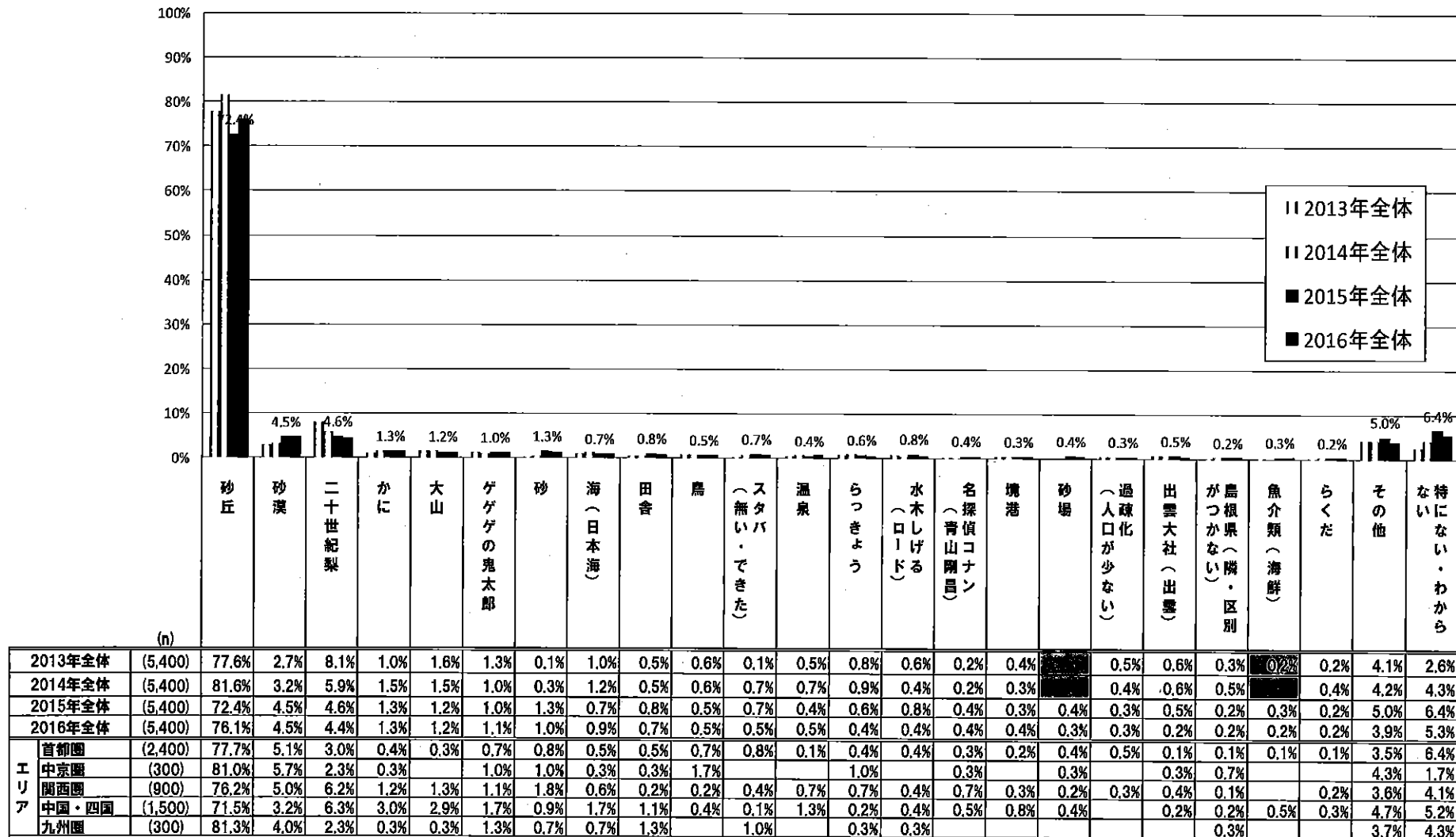
	(n)	訪れたことがある			48.8
		訪れたことがある	居住経験あり	一度も行ったことがない	
2013年全体	(5400)	48.1	17	51.2	48.8
2014年全体	(5400)	48.9	18	50.3	49.7
2015年全体	(5400)	47.2	12	51.7	48.3
2016年全体	(5400)	46.8	17	52.4	47.6
エリア×年代					
中国・四国	(1500)	72.3	11	26.6	49.4
10代	(57)	63.2	0	36.8	59.2
20代	(396)	63.6	15	33.8	53.2
30代	(297)	65.7	10	33.3	53.7
40代	(250)	74.0	4	25.6	54.4
50代	(250)	78.8	4	20.8	59.2
60代以上	(250)	88.0	4	11.6	69.4
九州圏	(300)	36.0	13	62.7	44.0
10代	(27)	18.5	0	81.5	18.5
20代	(73)	30.1	7	67.1	30.1
30代	(50)	28.0	0	72.0	28.0
40代	(50)	34.0	0	66.0	34.0
50代	(50)	42.0	10	56.0	44.0
60代以上	(50)	58.0	10	40.0	58.0

【対象者：全員】

1-2. 『鳥取県』と言われて連想されるもの

- ◆ 「鳥取砂丘」(76.1%) が突出して高く、減少した前年と比べ、3.7pt増加した。
- ◆ 前年と比較して最も減少したのは「水木しげる(ロード)」(0.4%) で、0.4pt減少している。

Q6. あなたは「鳥取県」と言われて何を連想しますか。(自由回答)



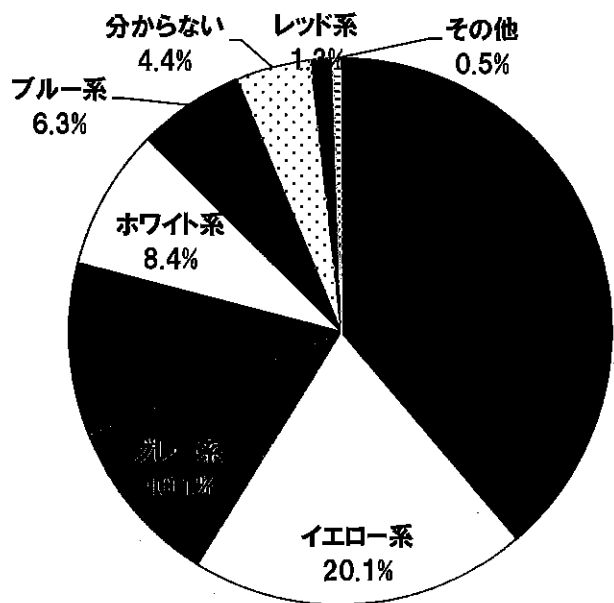
【対象者:全員】

1-3. 鳥取県の色

- ◆ 「ブラウン系」(38.8%)と「イエロー系」(20.1%)で全体の過半数を占めており、前年から大きな変化はない。
- ◆ 60代以上ではグレー系の比率も高い。
- ◆ 関西圏、中京圏、九州圏では、ブラウン系の比率が特に高い。

Q6. 鳥取県を色で表現するとすれば何色でしょうか。(自由回答)

	(n)	ブラウン系	イエロー系	グレー系	グリーン系	ホワイト系	ブルー系	レッド系	その他	わからない・特にならない
2013年全体	(5,400)	28.7%	27.2%	12.6%	11.9%	8.3%	6.4%	2.0%	1.3%	1.6%
2014年全体	(5,400)	31.5%	27.1%	11.1%	10.7%	7.6%	6.2%	2.4%	1.1%	3.3%
2015年全体	(5,400)	38.0%	19.9%	12.0%	9.1%	8.0%	6.4%	0.9%	0.4%	5.4%
2016年全体	(5,400)	38.8%	20.1%	10.1%	10.1%	8.4%	6.3%	1.3%	0.5%	4.4%
エリア										
首都圏	(2,400)	38.5%	21.3%	11.6%	9.0%	7.3%	5.1%	1.1%	0.5%	5.7%
関西圏	(900)	43.6%	18.4%	7.0%	11.8%	8.1%	7.0%	1.6%	0.1%	2.4%
中京圏	(300)	43.0%	21.3%	7.7%	7.3%	8.3%	5.7%	2.0%	1.3%	3.3%
中国・四国	(1,500)	34.2%	19.5%	10.8%	12.1%	9.5%	8.1%	1.6%	0.5%	3.7%
北九州	(300)	45.3%	17.0%	7.3%	7.3%	12.0%	5.7%	0.3%	0.3%	4.7%



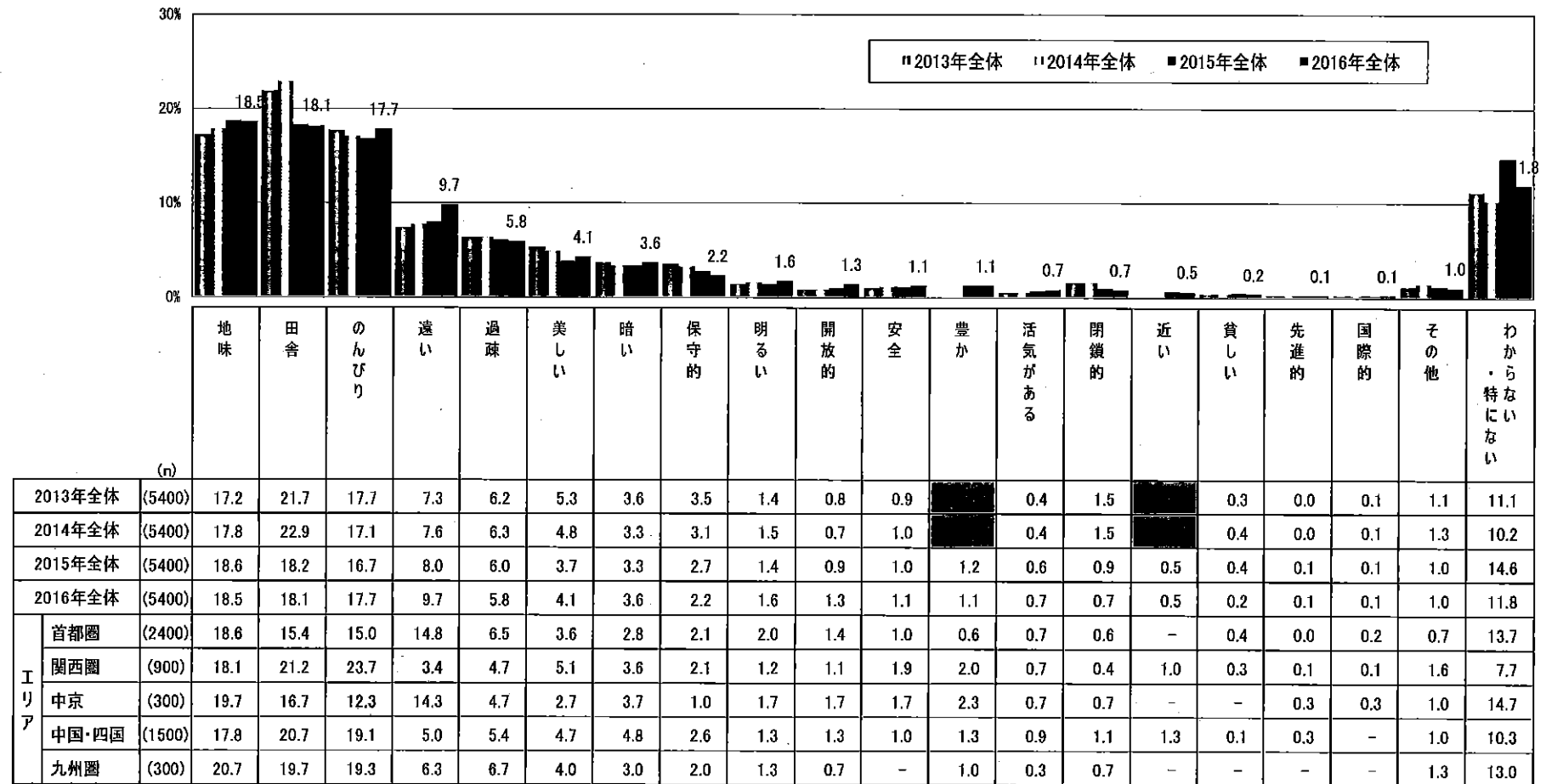
【対象者:全員】

	(n)	ブラウン系	イエロー系	グレー系	グリーン系	ホワイト系	ブルー系	レッド系	その他	わからない・特にならない
2013年全体	(5,400)	28.7%	27.2%	12.6%	11.9%	8.3%	6.4%	2.0%	1.3%	1.6%
2014年全体	(5,400)	31.5%	27.1%	11.1%	10.7%	7.6%	6.2%	2.4%	1.1%	3.3%
2015年全体	(5,400)	38.0%	19.9%	12.0%	9.1%	8.0%	6.4%	0.9%	0.4%	5.4%
2016年全体	(5,400)	38.8%	20.1%	10.1%	10.1%	8.4%	6.3%	1.3%	0.5%	4.4%
エリア										
10代	(456)	40.4%	23.9%	2.8%	15.1%	5.9%	5.3%	1.8%	0.7%	4.4%
20代	(1,297)	45.3%	24.9%	3.6%	11.6%	3.7%	5.0%	1.1%	0.2%	4.7%
30代	(947)	37.8%	28.4%	4.8%	11.9%	5.6%	4.8%	1.9%	0.2%	4.5%
40代	(900)	40.9%	18.8%	8.6%	10.3%	8.7%	6.6%	1.2%	0.6%	4.4%
50代	(900)	34.9%	17.7%	17.7%	7.1%	12.6%	6.1%	1.6%	0.7%	5.0%
60代以上	(900)	31.3%	23.2%	23.2%	6.4%	14.7%	10.3%	0.7%	0.7%	3.2%
首都圏	(2,400)	38.5%	21.3%	11.6%	9.0%	7.3%	5.1%	1.1%	0.5%	5.7%
10代	(194)	38.7%	22.2%	5.7%	12.4%	7.7%	5.7%	1.0%	0.5%	6.2%
20代	(608)	43.9%	28.1%	3.5%	10.6%	2.8%	5.0%	1.0%	0.5%	5.1%
30代	(400)	35.0%	30.0%	6.0%	12.3%	5.3%	2.5%	1.8%	0.3%	7.0%
40代	(400)	44.8%	19.3%	9.0%	8.8%	8.0%	3.5%	0.8%	0.3%	5.8%
50代	(400)	36.0%	15.0%	20.8%	6.0%	9.5%	6.5%	1.3%	0.8%	5.3%
60代以上	(400)	29.8%	23.0%	28.0%	6.3%	13.5%	8.0%	0.8%	0.5%	5.3%
関西圏	(900)	43.6%	18.4%	7.0%	11.8%	8.1%	7.0%	1.6%	0.1%	2.4%
10代	(128)	46.9%	23.4%		16.4%	5.5%	3.1%	3.1%		1.6%
20代	(172)	54.7%	16.3%	4.7%	12.8%	7.0%	2.3%	1.2%		1.2%
30代	(150)	48.7%	23.3%	2.0%	12.0%	3.3%	8.0%	2.0%		0.7%
40代	(150)	38.0%	19.3%	9.3%	12.7%	7.3%	6.7%	1.3%		5.3%
50代	(150)	36.0%	16.7%	7.3%	11.3%	14.7%	6.7%	2.0%		5.3%
60代以上	(150)	36.0%	22.7%	18.0%	6.0%	10.7%	15.3%		0.7%	0.7%
中京圏	(300)	43.0%	21.3%	7.7%	7.3%	8.3%	5.7%	2.0%	1.3%	3.9%
10代	(50)	42.0%	26.0%		16.0%	4.0%	4.0%	2.0%		6.0%
20代	(50)	52.0%	28.0%	2.0%	8.0%	4.0%	4.0%	2.0%		
30代	(50)	44.0%	30.0%	2.0%	10.0%	4.0%	4.0%		2.0%	4.0%
40代	(50)	36.0%	22.0%	6.0%	6.0%	10.0%	14.0%	2.0%		4.0%
50代	(50)	46.0%	14.0%	18.0%	2.0%	12.0%	2.0%	2.0%		2.0%
60代以上	(50)	38.0%	18.0%	20.0%	16.0%	10.0%	2.0%	2.0%		4.0%
中国・四国	(1,500)	34.2%	19.5%	10.8%	12.1%	9.5%	8.1%	1.6%	0.5%	3.7%
10代	(57)	38.0%	18.0%	22.8%	14.0%	14.0%				3.5%
20代	(396)	42.2%	23.7%	3.0%	13.8%	4.3%	6.6%	1.0%		5.6%
30代	(297)	33.3%	28.3%	6.7%	13.1%	6.7%	6.4%	2.7%		3.7%
40代	(250)	34.4%	18.0%	8.8%	13.2%	9.6%	10.4%	2.0%	1.6%	2.0%
50代	(250)	30.0%	16.2%	19.6%	9.2%	14.0%	6.4%	2.0%	0.8%	4.8%
60代以上	(250)	28.2%	22.0%	22.0%	7.6%	18.0%	10.4%	0.8%	0.8%	1.6%
九州圏	(300)	45.3%	17.0%	7.3%	7.3%	12.0%	5.7%	0.3%	0.3%	4.7%
10代	(27)	66.0%	14.3%		11.1%	7.4%	3.7%			3.7%
20代	(73)	46.8%	23.3%	4.1%	9.6%	2.7%	4.1%	1.4%		8.2%
30代	(50)	48.0%	28.0%	4.0%	4.0%	10.0%	4.0%			2.0%
40代	(50)	36.0%	14.0%	4.0%	6.0%	12.0%	4.0%			4.0%
50代	(50)	36.0%		14.0%	6.0%	20.0%	4.0%			6.0%
60代以上	(50)	34.0%		16.0%	8.0%	18.0%	14.0%			2.0%

1-4. 鳥取県に対するイメージ

- ◆ 大きな順位の変動はなく、「地味」(18.5%)、「田舎」(18.1%)「のんびり」(17.7%)がトップ3で、合計すると過半数を占める。
- ◆ 「遠い」(9.7%)が1.7pt増と僅かながら上昇し、これまでの調査で最も高くなった。
- ◆ 昨年の調査で大きく増加した「わからない・特にない」(11.8%)は2.8pt減少し、2013年・2014年の水準に戻った。

Q7. あなたが鳥取県に対して持っているイメージに最も当てはまるものを、1つ選んでください。(ひとつだけ)



※「2016年全体」で降順ソート。

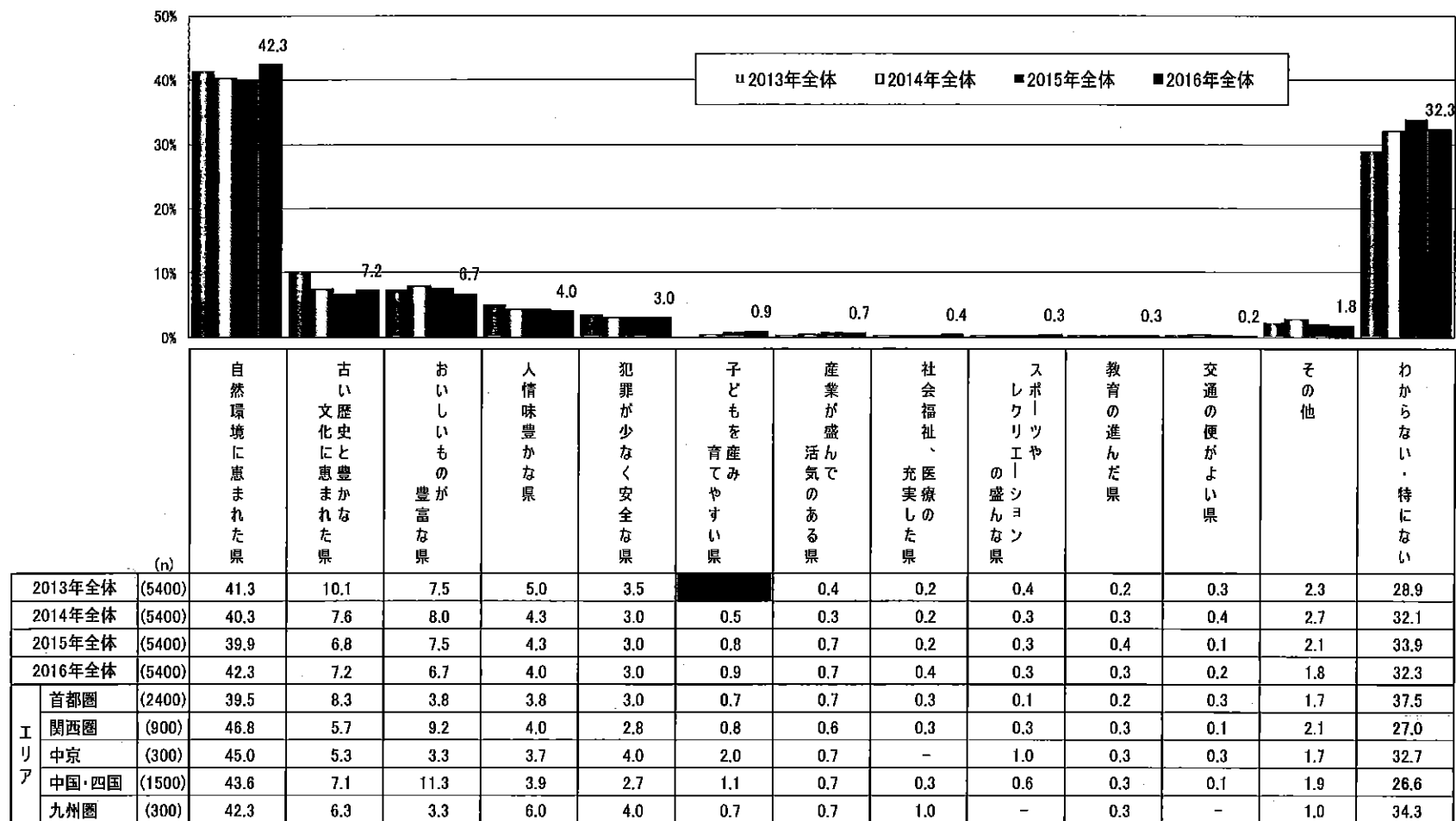
※「豊か」「近い」は2015年からの追加項目。

【対象者:全員】

1-5. 鳥取県に最も当てはまる県のイメージ

- ◆ 「自然環境に恵まれた県」(42.3%)が多く、「古い歴史と豊かな文化に恵まれた県」(7.2%)「おいしいものが豊富な県」(6.7%)が続く。
- ◆ 3人に1人(32.3%)が「わからない・特にない」と回答。

Q8. あなたは鳥取県をどのような県だと思いますか。最も当てはまると思うものを1つ選んでください。(ひとつだけ)



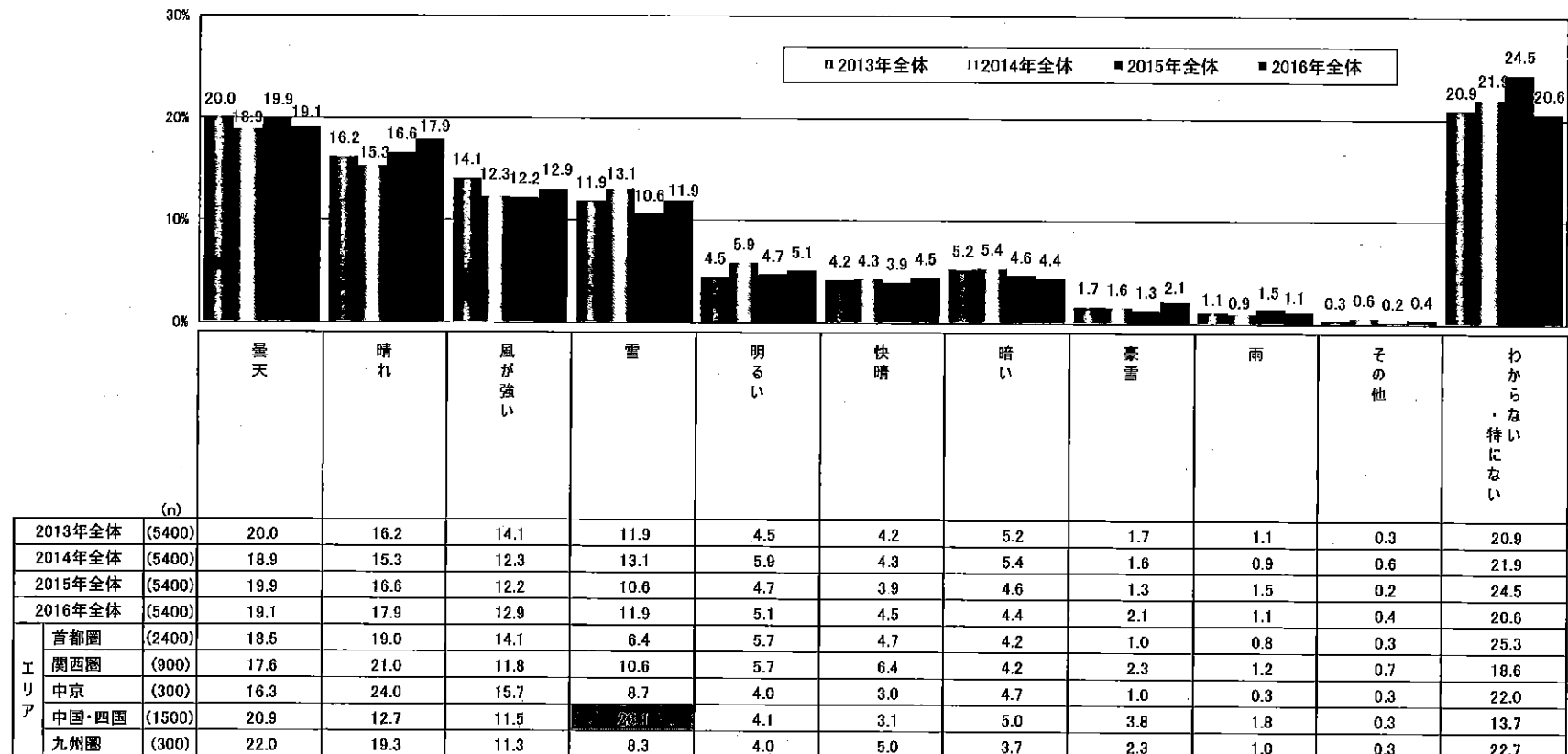
※「2016年全体」で降順ソート。

【対象者: 全員】

1-6. 鳥取県の天候に対するイメージ

- ◆ 「曇天」(19.1%)がトップ。以下、「晴れ」(18%)、「風が強い」(13%)、「雪」(12%)が10%台の僅差で続く。このトップ4だけで全体の6割強を占めている。
- ◆ 2割強が「わからない・特にない」(20.5%)と回答しているが、昨年から減少しており、この4年間では最も低い。
- ◆ エリア別で見ると、中国・四国では「雪」が他エリアに比べて高い。

Q9. あなたが鳥取県の天候に対して持っているイメージに最も当てはまるものを1つ選んでください。(ひとつだけ)







※「2016年全体」で降順ソート。

【対象者:全員】

2. 鳥取県の話題・特産物・観光地について

※数表内の網掛け

	2016年全体値より10%以上高いもの
	2016年全体値より5%以上高いもの
	2016年全体値より5%以上低いもの
	2016年全体値より10%以上低いもの

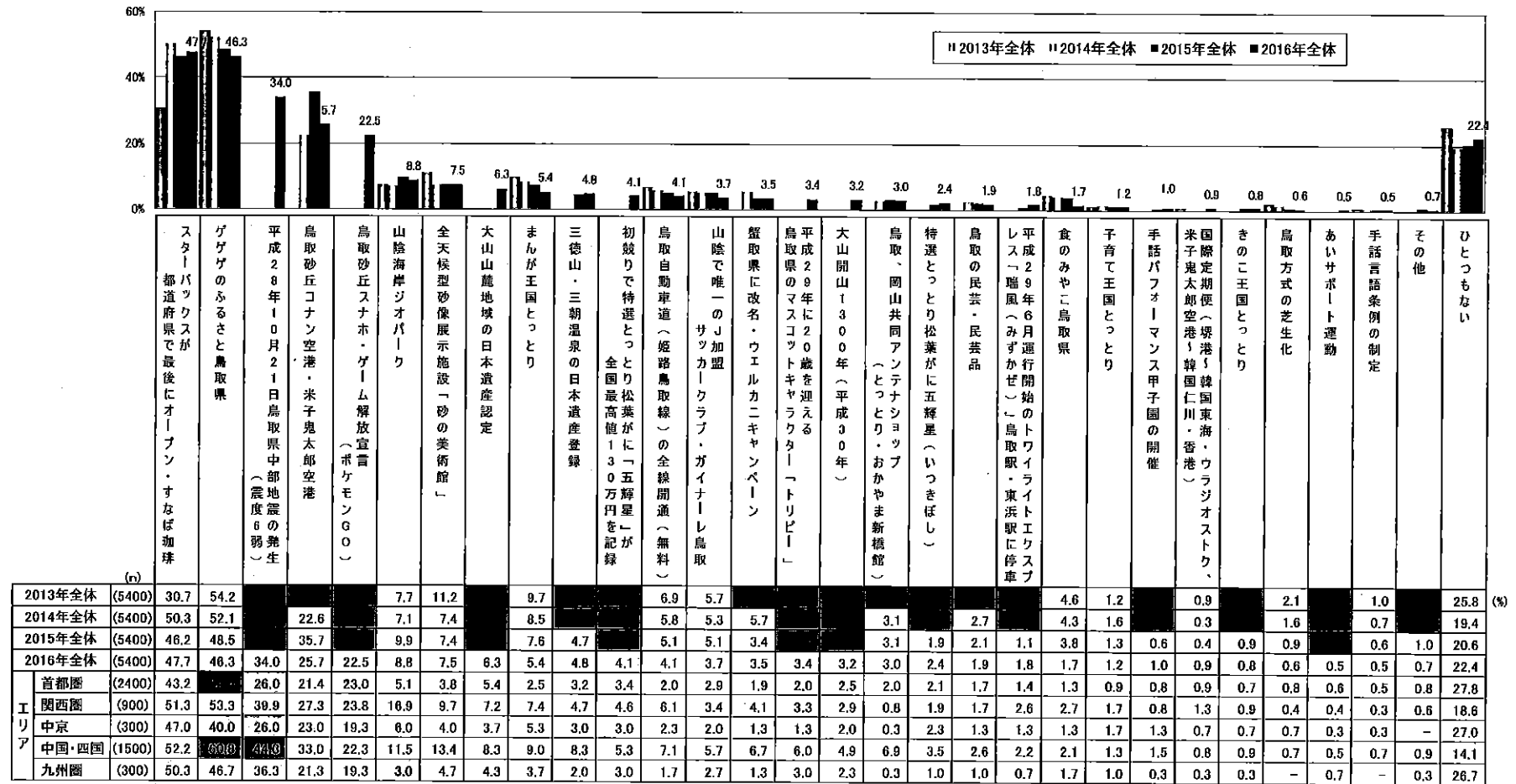
但し、N=30未満は除く。

(以降のページも同様。)

2-1. 見聞きしたことのある鳥取県に関する話題

- ◆ 「スターバックスが都道府県で最後にオープン・すなば珈琲」(47.7%)が調査開始以来はじめて1位となった。
- ◆ 次いで、「ゲゲゲのふるさと鳥取県」(46.3%)、「平成28年10月21日鳥取県中部地震の発生(震度6弱)」(34.0%)が続く。
- ◆ 新規項目では「鳥取砂丘スナホ・ゲーム解放宣言(ポケモンGO)」(22.5%)が6位となっている。
- ◆ 特に大きな変動として、「鳥取砂丘コナン空港・米子鬼太郎空港」(35.7%)が前年から10pt減少した。

Q10. 鳥取県の話題に関するものです。あなたが聞いたことのあるもの全てを選んでください。(いくつでも)



※「2016年全体」以降順ソート。

※「スターバックスが都道府県で最後にオープン・すなば珈琲」の2013年・2014年は、「スターバックスが全国で唯一無二の県」で鳥取。「鳥取砂丘コナン空港・米子鬼太郎空港」の2014年は、「鳥取砂丘コナン空港の愛称化」で鳥取。

【対象者：全員】

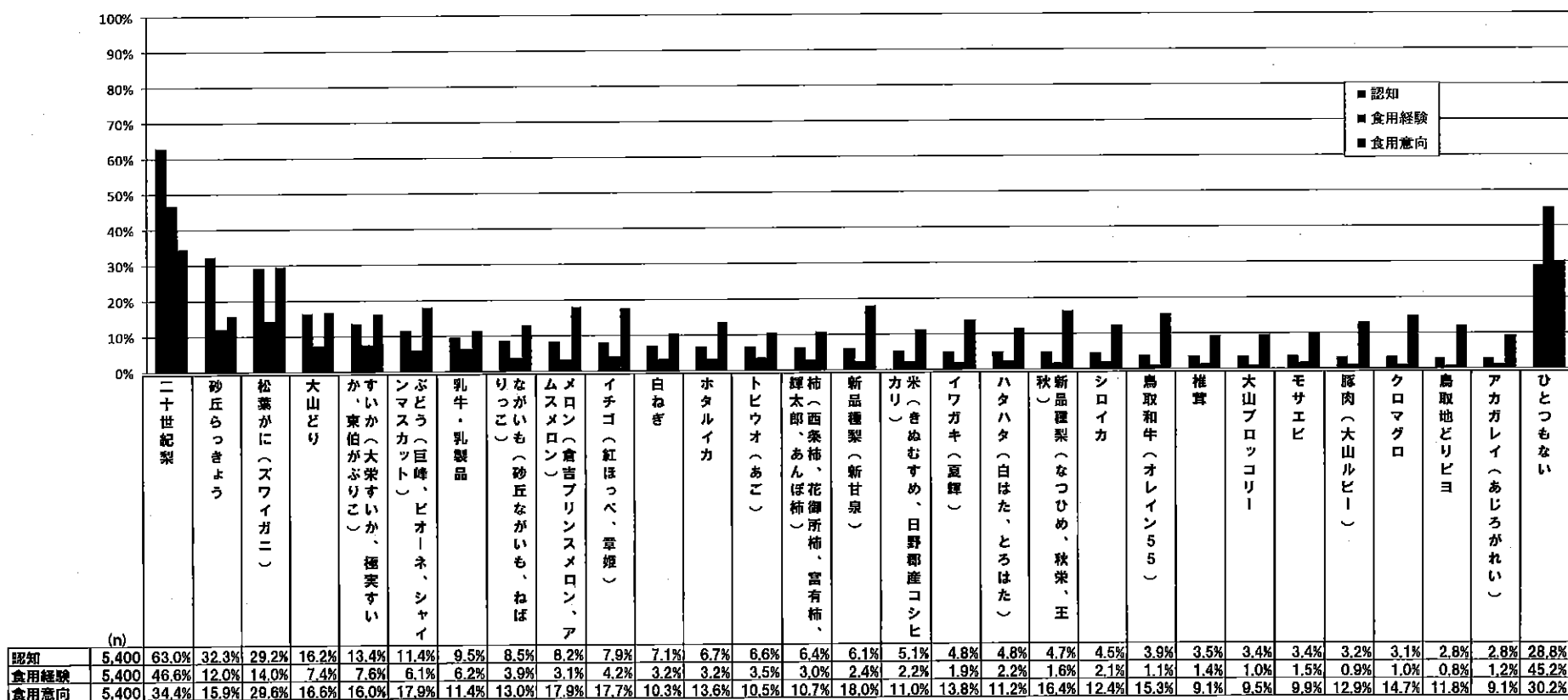
※「山陰海岸ジオパーク」の2013年・2014年は、「山陰海岸ジオパークの世界・ジオパークネットワーク加盟」で鳥取。「鳥取の民芸・民芸品」の2014年は、「鳥取の民芸・民芸品」で鳥取。

※「国際定期便(堺港~韓国東海・ウラジオストク、米子鬼太郎空港~韓国仁川・香港)」の2013年~2015年は、「環日本海航路(北東アジアゲートウェイ)」で鳥取。

2-2. 鳥取県の「特産物」の認知・食用経験・食用意向 <全体一覧(2016年)>

- ◆ 全ての指標で「二十世紀梨」がトップ、「松葉がに」がそれに次ぐ。
- ◆ 認知については、「二十世紀梨」(63.0%)、「砂丘らっきょう」(32.3%)、「松葉がに(ズワイガニ)」(29.2%)の順で高く、「ひとつもない」(28.8%)は全体の3割弱にとどまり、全体の7割強が何らかの特産物を認知している。
- ◆ 食用経験については、「二十世紀梨」(46.6%)、「松葉がに」(14.0%)、「砂丘らっきょう」(12.0%)の順で高い。一方、半数近くが「ひとつもない」(45.2%)と回答している。
- ◆ 食用意向については、「二十世紀梨」(34.4%)、「松葉がに」(29.2%)の順に高く、次いで「新品種梨(新甘泉)」(18.0%)、「ぶどう」(17.9%)「メロン」(17.9%)「イチゴ」(17.7%)、「大山どり」(16.6%)等が拮抗している。「ひとつもない」(30.2%)は全体の3割弱にとどまり、全体の7割強が何らかの特産物を食用する意向を示している。

Q11. 鳥取県が主な産地である「農産物・畜産物・水産物」で、あなたが、[1] 鳥取県が産地であることを知っているもの、[2] 鳥取県産で食べたことがあるもの、[3] 鳥取県産で食べてみたいと思うものをそれぞれ全て選んでください。(それぞれいくつでも)

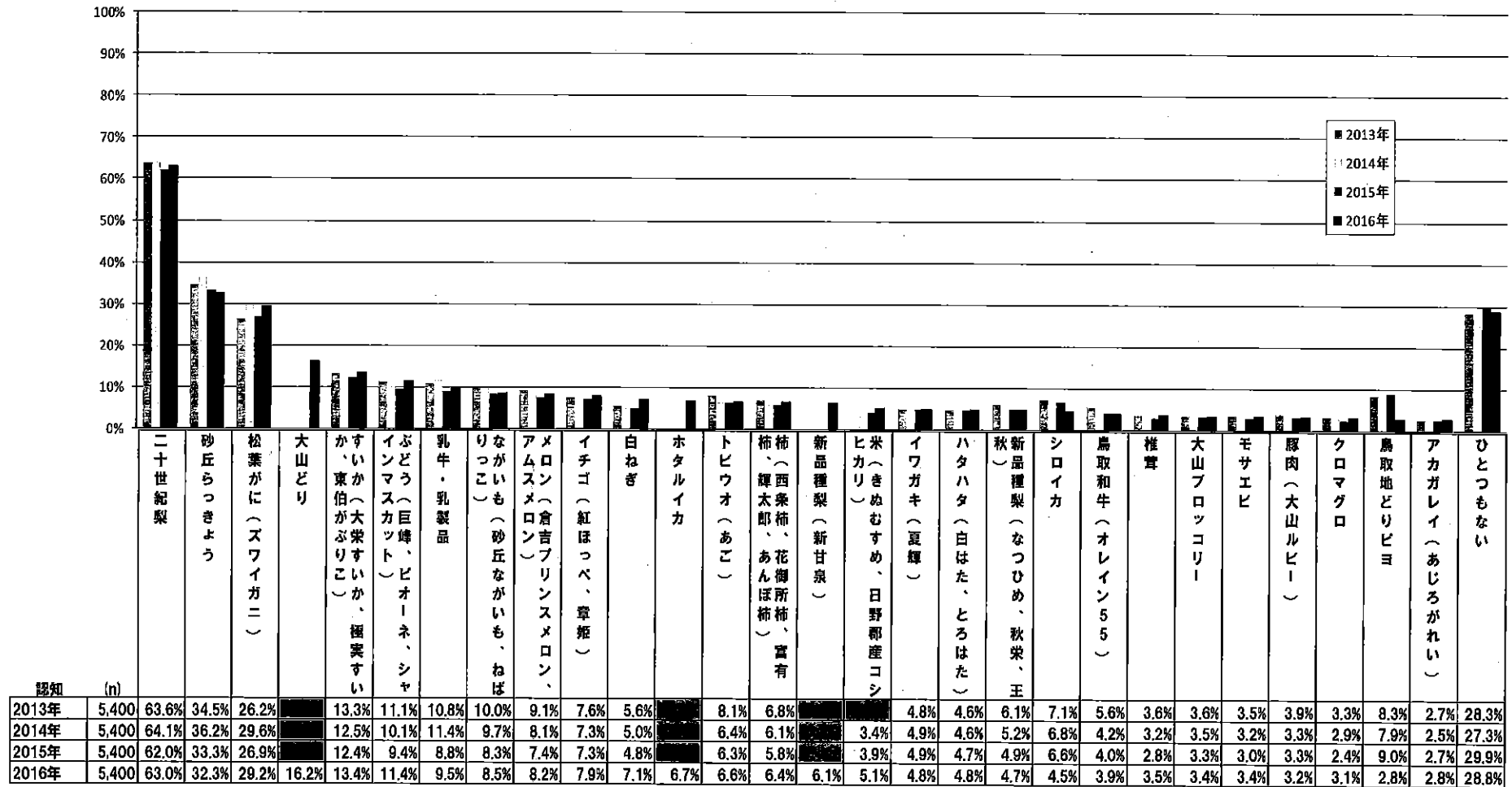


2-2. 鳥取県の「特産物」の認知・食用経験・食用意向 <認知の推移>

- ◆ ほとんどの項目について前年よりわずかながら上昇しているものの、大きな変動はない。
- ◆ 新規項目では、「大山どり」(16.2%)が全体4位となっているほか、「ホタルイカ」(6.7%)、「新品種梨(新甘泉)」(6.1%)となっている。

Q11. 鳥取県が主な産地である「農産物・畜産物・水産物」で、あなたが、[1] 鳥取県が産地であることを知っているもの、[2] 鳥取県産で食べたことがあるもの、[3] 鳥取県産で食べてみたいと思うものをそれぞれ全て選んでください。(それぞれいくつでも)

※うち「鳥取県が産地であることを知っているもの」の回答



※「大山どり」は2015年まで「鳥取地どりピヨ・大山どり(鶏肉)」としてカウント ※「ホタルイカ」は2015年まで「シロイカ・ホタルイカ」としてカウント

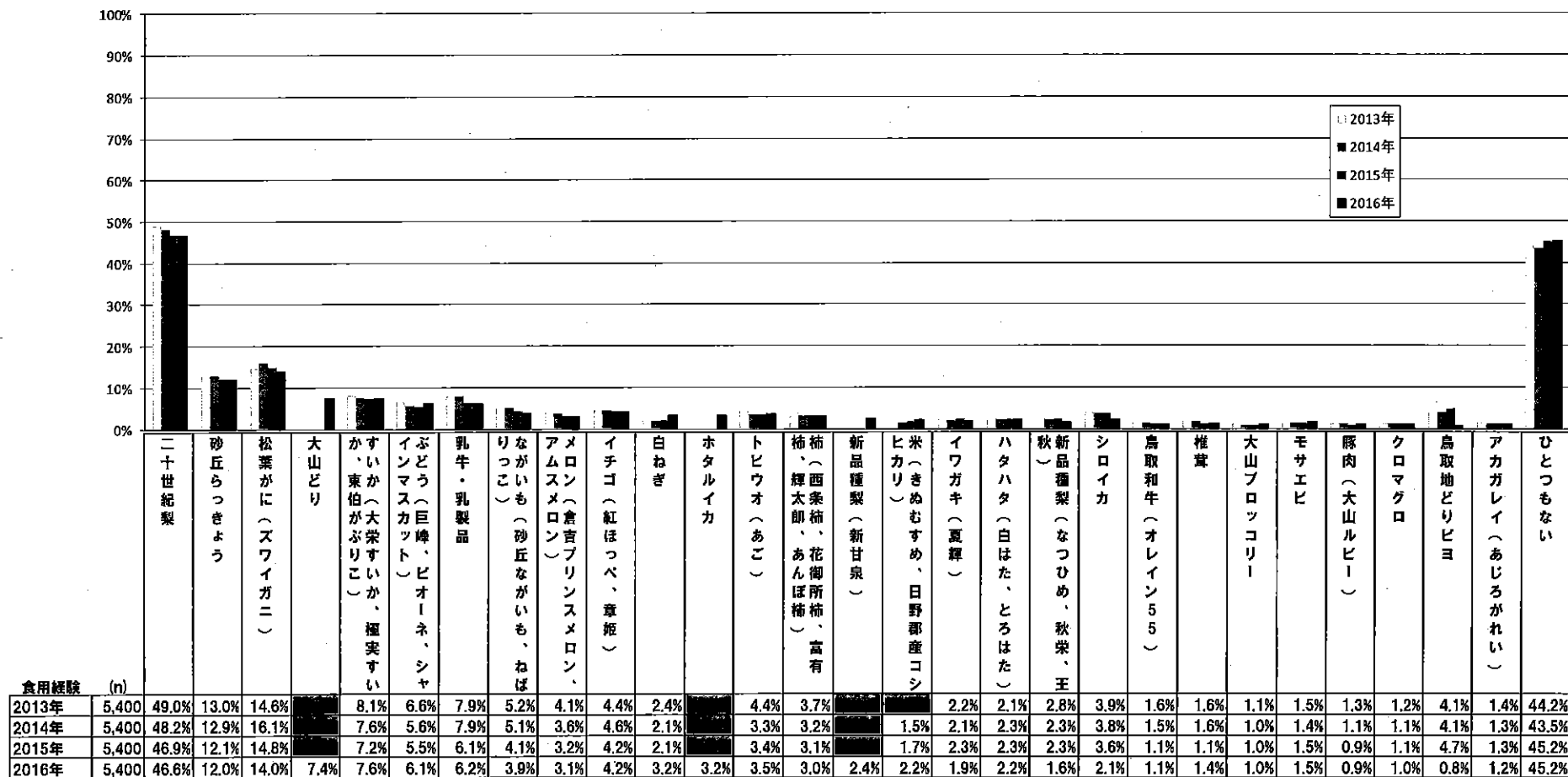
※「新品種梨(新甘泉)」は2015年まで「新品種梨(なつひめ、新甘泉、秋栄、王秋)」としてカウント

2-2. 鳥取県の「特産物」の認知・食用経験・食用意向 <食用経験の推移>

- ◆ 半数ほどの項目で前年よりわずかに下がっているが、大きな変化はない。
- ◆ 新規項目では、「大山どり」(7.4%)が全体の6位となっている。
- ◆ 今回から項目を分けた「ホタルイカ」(6.7%)と「シロイカ(2.1%)」は、ホタルイカの方が高い。

Q11. 鳥取県が主な産地である「農産物・畜産物・水産物」で、あなたが、[1] 鳥取県が産地であることを知っているもの、[2] 鳥取県産で食べたことがあるもの、[3] 鳥取県産で食べてみたいと思うもの、をそれぞれ全て選んでください。(それぞれいくつでも)

※うち「鳥取県産で食べたことがあるもの」の回答



※「大山どり」は2015年まで「鳥取地どりピヨ・大山どり(鶏肉)」としてカウント ※「ホタルイカ」は2015年まで「シロイカ・ホタルイカ」としてカウント

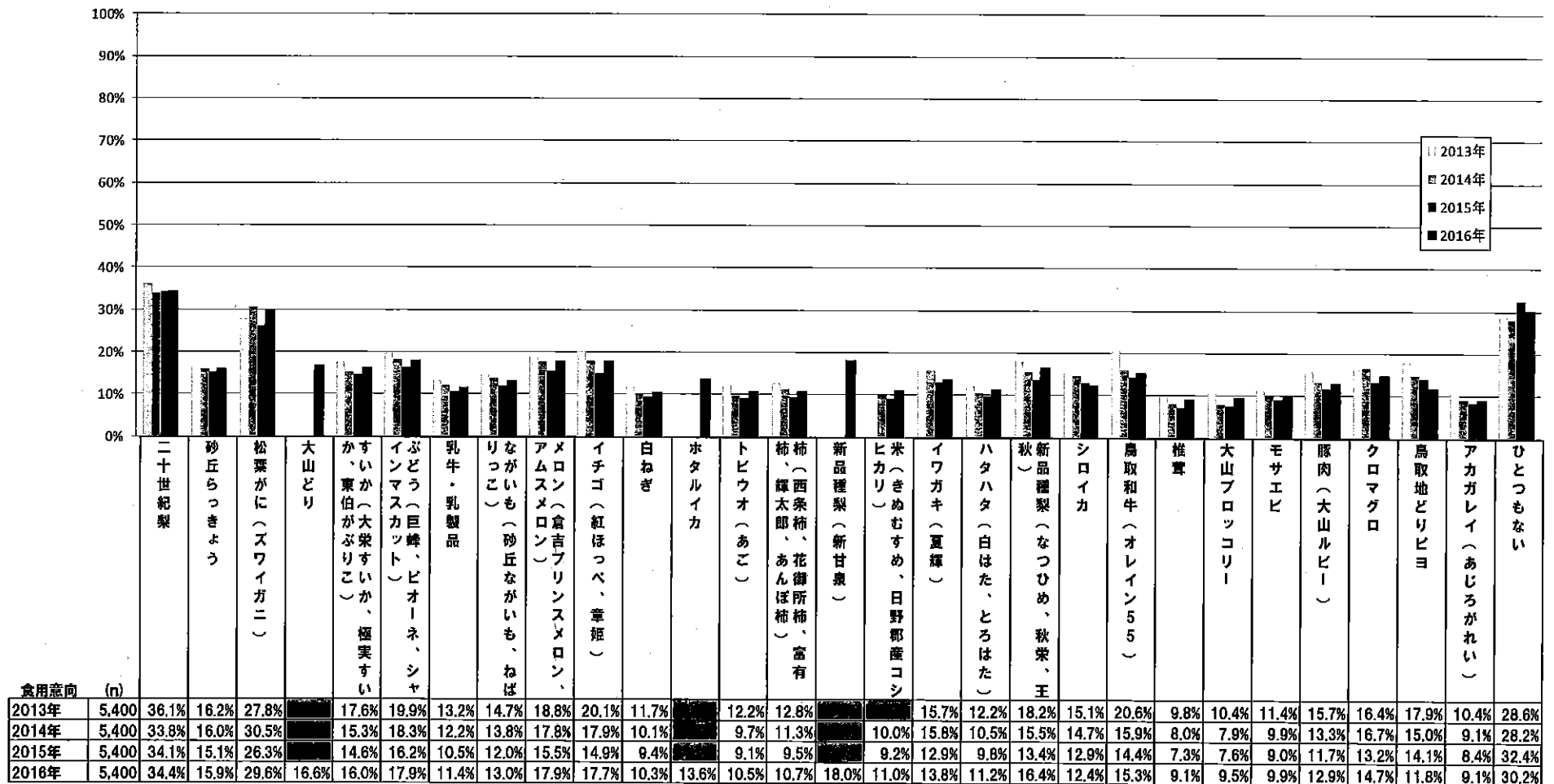
※「新品種梨(新甘泉)」は2015年まで「新品種梨(なつひめ、新甘泉、秋栄、王秋)」としてカウント

2-2. 鳥取県の「特産物」の認知・食用経験・食用意向 <食用意向の推移>

- ◆ ほとんどの項目で前年より回答率がわずかながら増加している。
- ◆ 新規項目では、「新品種梨(新甘梨)」(18%)が全体の4位、「大山どり」(17%)が全体の8位となっている。

Q11. 鳥取県が主な産地である「農産物・畜産物・水産物」で、あなたが、[1] 鳥取県が産地であることを知っているもの、[2] 鳥取県産で食べたことがあるもの、[3] 鳥取県産で食べてみたいと思うもの、をそれぞれ全て選んでください。(それぞれいくつでも)

※うち「鳥取県産で食べてみたいと思うもの」の回答



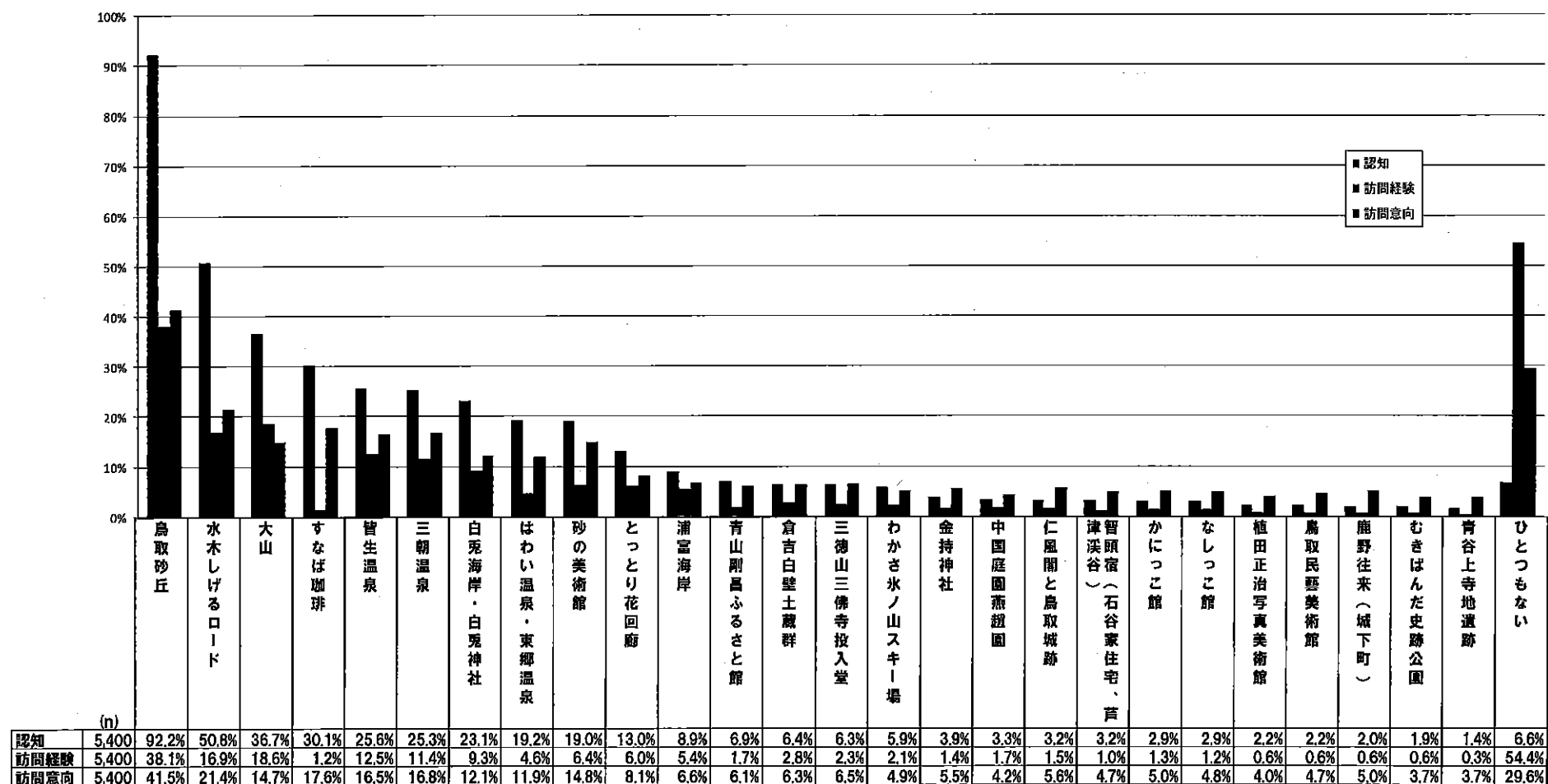
※「大山どり」は2015年まで「鳥取地どりピヨ・大山どり(鶏肉)」としてカウント ※「ホタルイカ」は2015年まで「シロイカ・ホタルイカ」としてカウント

※「新品種梨(新甘梨)」は2015年まで「新品種梨(なつひめ、新甘梨、秋栄、王秋)」としてカウント

2-3. 鳥取県の「観光地等」の認知・訪問経験・訪問意向 <全体一覽(2016年)>

- ◆ 調査開始以来、全ての項目で「鳥取砂丘」がトップとなっている。
- ◆ 認知度については、「鳥取砂丘」(92.2%)が突出して高く、「水木しげるロード」(50.8%)、「大山」(36.7%)、「すなば珈琲」(30.1%)と続く。
- ◆ 訪問経験については、「ひとつもない」(54.4%)が最も多い。次いで、「鳥取砂丘」(38.1%)、「大山」(18.6%)、「水木しげるロード」(16.9%)と続く。
- ◆ 訪問意向については、「鳥取砂丘」(41.5%)、「水木しげるロード」(21.4%)、「すなば珈琲」(17.6%)が上位に挙がる。一方、「ひとつもない」(29.6%)の回答が3割近くとなっている。

Q12.鳥取県の「観光地等」で、あなたが、[1] 知っているもの、[2] 行ったことがあるもの、[3] 行ってみたいと思うもの、をそれぞれ全て選んでください。(それぞれいくつでも)

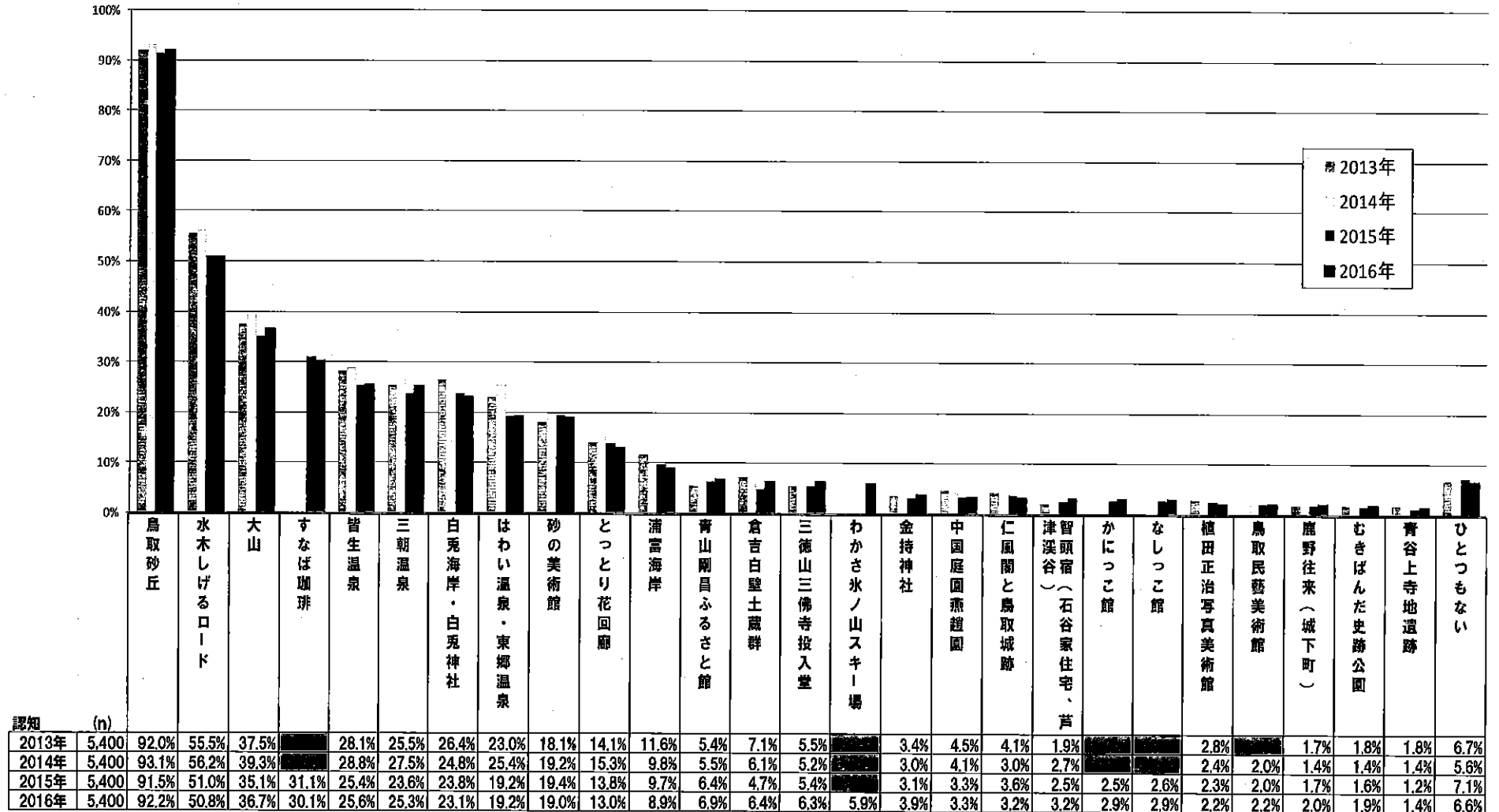


2-3. 鳥取県の「観光地等」の認知・訪問経験・訪問意向 <認知の推移>

- ◆ ほとんどの項目で前年より回答率が微増しているが、全体として大きな変化はない。
- ◆ 「鳥取砂丘」(92.2%)が突出して高く、「水木しげるロード」(50.8%)、「大山」(36.7%)、「すなば珈琲」(30.1%)と続く。

Q12.鳥取県の「観光地等」で、あなたが、[1] 知っているもの、[2] 行ったことがあるもの、[3] 行ってみたいと思うもの、をそれぞれ全て選んでください。(それぞれいくつでも)

※うち「知っているもの」の回答数

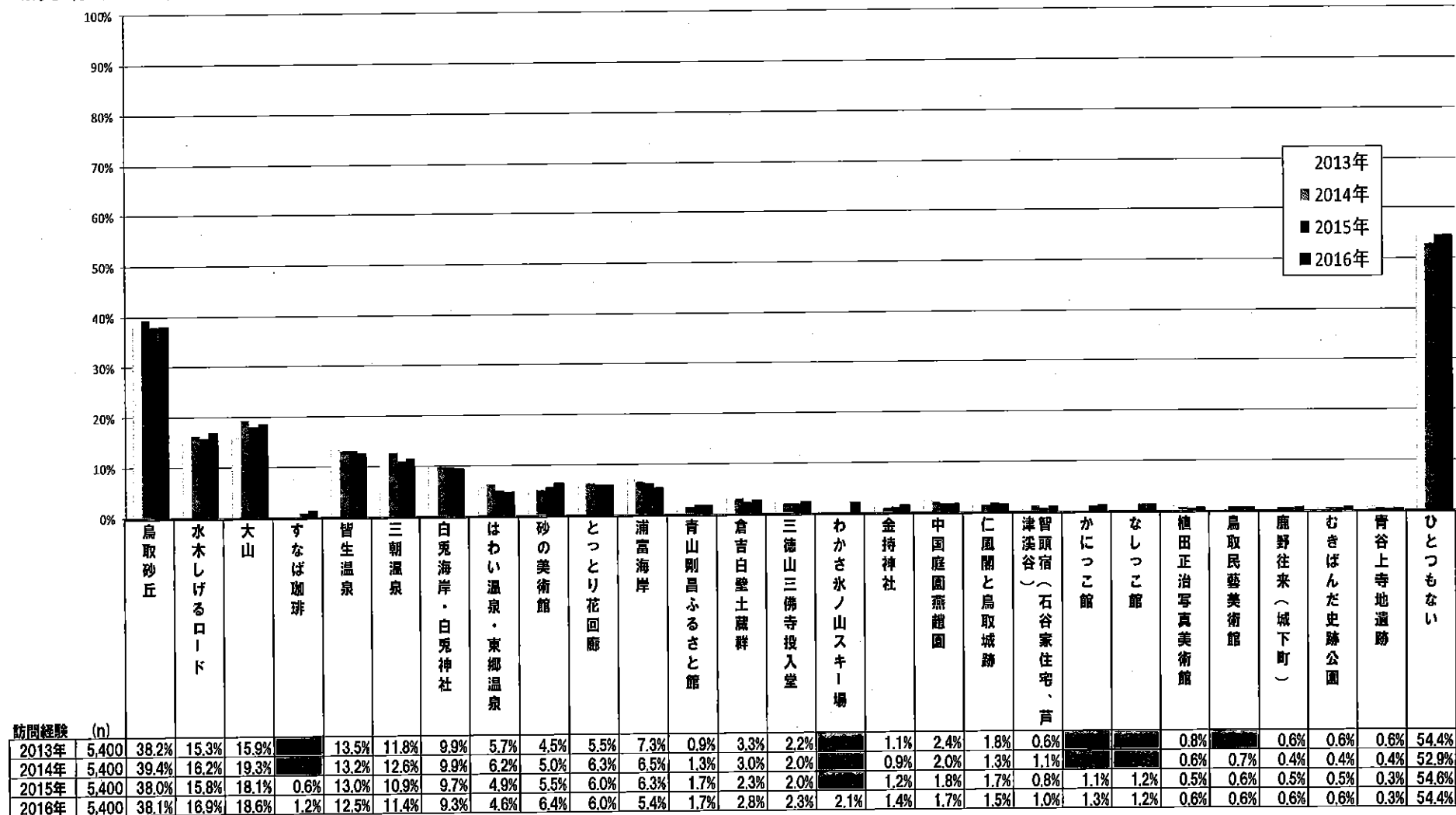


2-3. 鳥取県の「観光地等」の認知・訪問経験・訪問意向 <訪問経験の推移>

- ◆ほとんどの項目で前年より回答率が微増しているが、全体として大きな変化はない。
- ◆「ひとつもない」(54.4%)が最も多い。次いで、「鳥取砂丘」(38.1%)、「大山」(18.6%)、「水木しげるロード」(16.9%)と続く。

Q12.鳥取県の「観光地等」で、あなたが、[1]知っているもの、[2]行ったことがあるもの、[3]行ってみたいと思うもの、をそれぞれ全て選んでください。(それぞれいくつでも)

※うち「行ったことがあるもの」の回答数

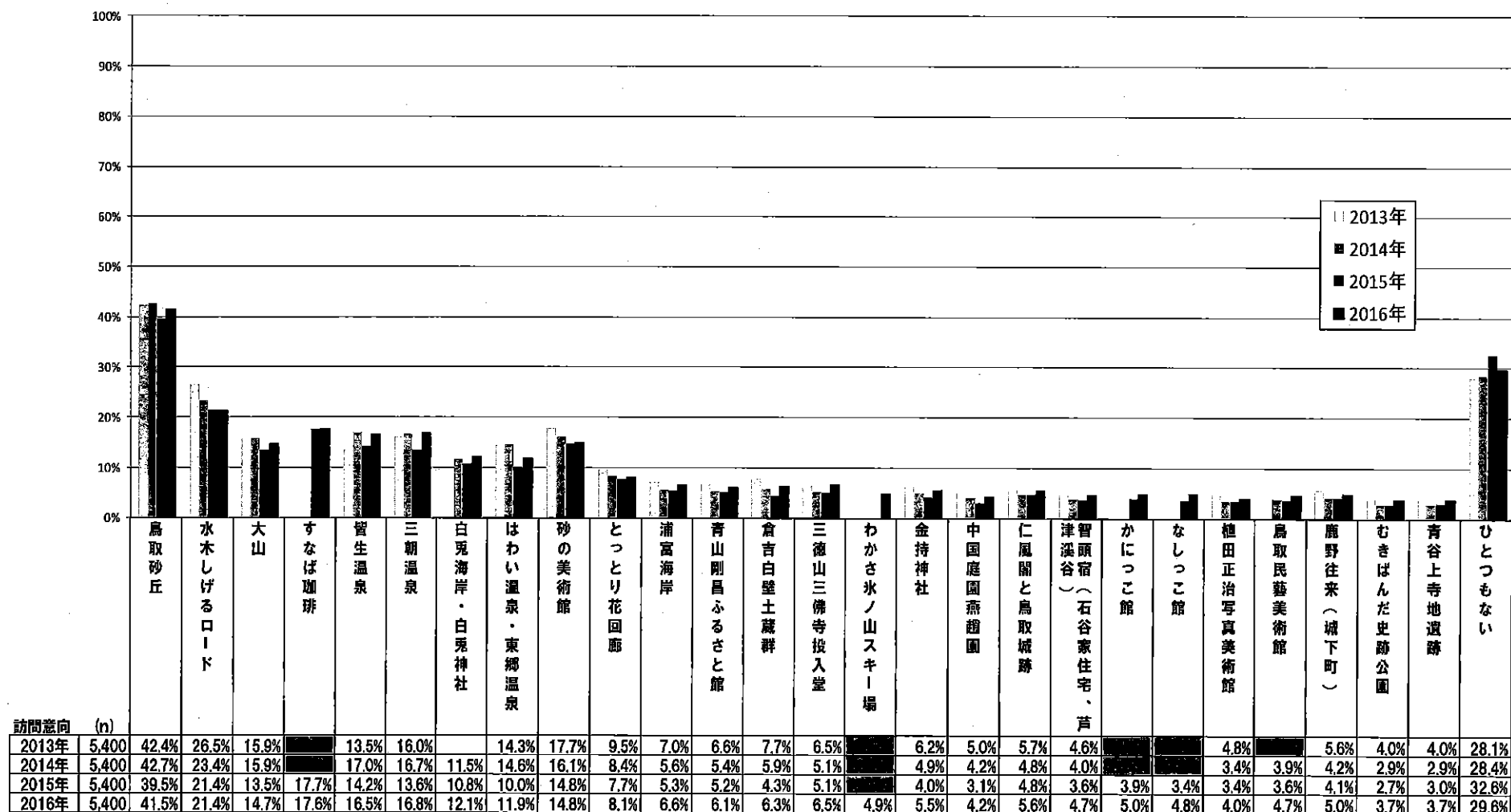


2-3. 鳥取県の「観光地等」の認知・訪問経験・訪問意向 <訪問意向の推移>

- ◆ ほとんどの項目で前年より回答率が微増している。
- ◆ 「鳥取砂丘」(41.5%)、「水木しげるロード」(21.4%)、「すなば珈琲」(17.6%)が上位に挙がる。一方、「ひとつもない」(29.6%)の回答が3割近くとなっているが、大増加した前年より3.1pt減少し、2012・2013年の水準に戻っている。
- ◆ 最も増加したのは「三朝温泉」(16.8%)で、前年から3.2pt増加した。

Q12.鳥取県の「観光地等」で、あなたが、[1] 知っているもの、[2] 行ったことがあるもの、[3] 行ってみたいと思うもの、をそれぞれ全て選んでください。(それぞれいくつでも)

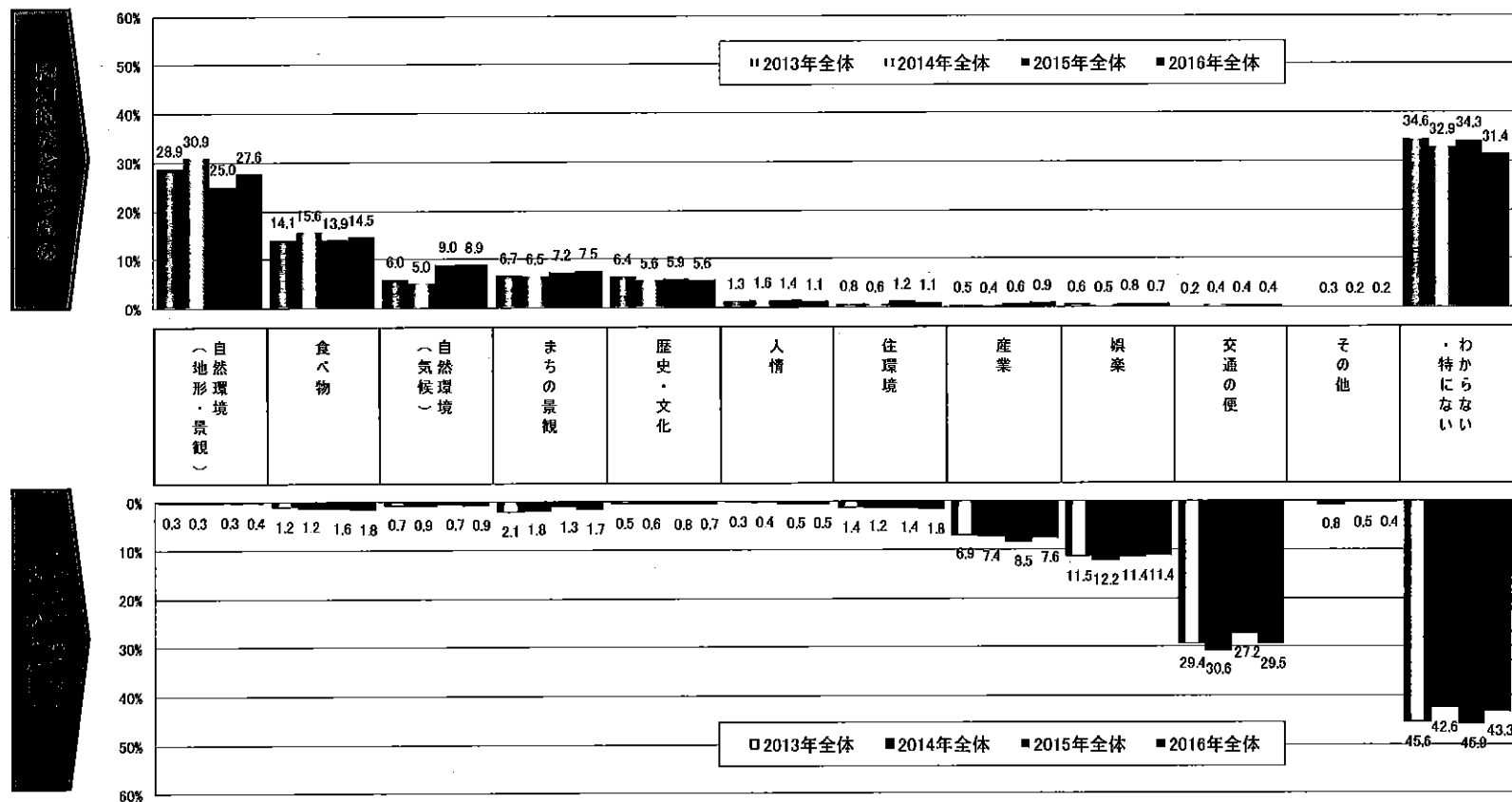
※うち「行ってみたいと思うもの」の回答数



2-4. 鳥取県の魅力点と魅力不足点

- ◆【魅力的だと思うもの】のトップは「自然環境(地形・景観)」(27.6%)、以下「食べ物」(14.5%)、「自然環境(気候)」(8.9%)、「まちの景観」(7.5%)の順に続く。
- ◆【魅力が不足していると思うもの】のトップは、「交通の便」(29.5%)、以下「娯楽」(11.4%)、「産業」(7.6%)が1割前後となっている。
- ◆時系列でみると、昨年スコアが落ちた【魅力点】1位の「自然環境(地形・景観)」は3pt増でやや持ち直した。2位の「食べ物」以下は、総じて昨年並みで推移している。また、【魅力が不足している点】に関してもあまり動きはみられない。

Q13. 鳥取県について、[1] 魅力的だと思うもの、[2] 魅力が不足していると思うもの、をそれぞれ1つ選んでください。(それぞれひとつだけ)



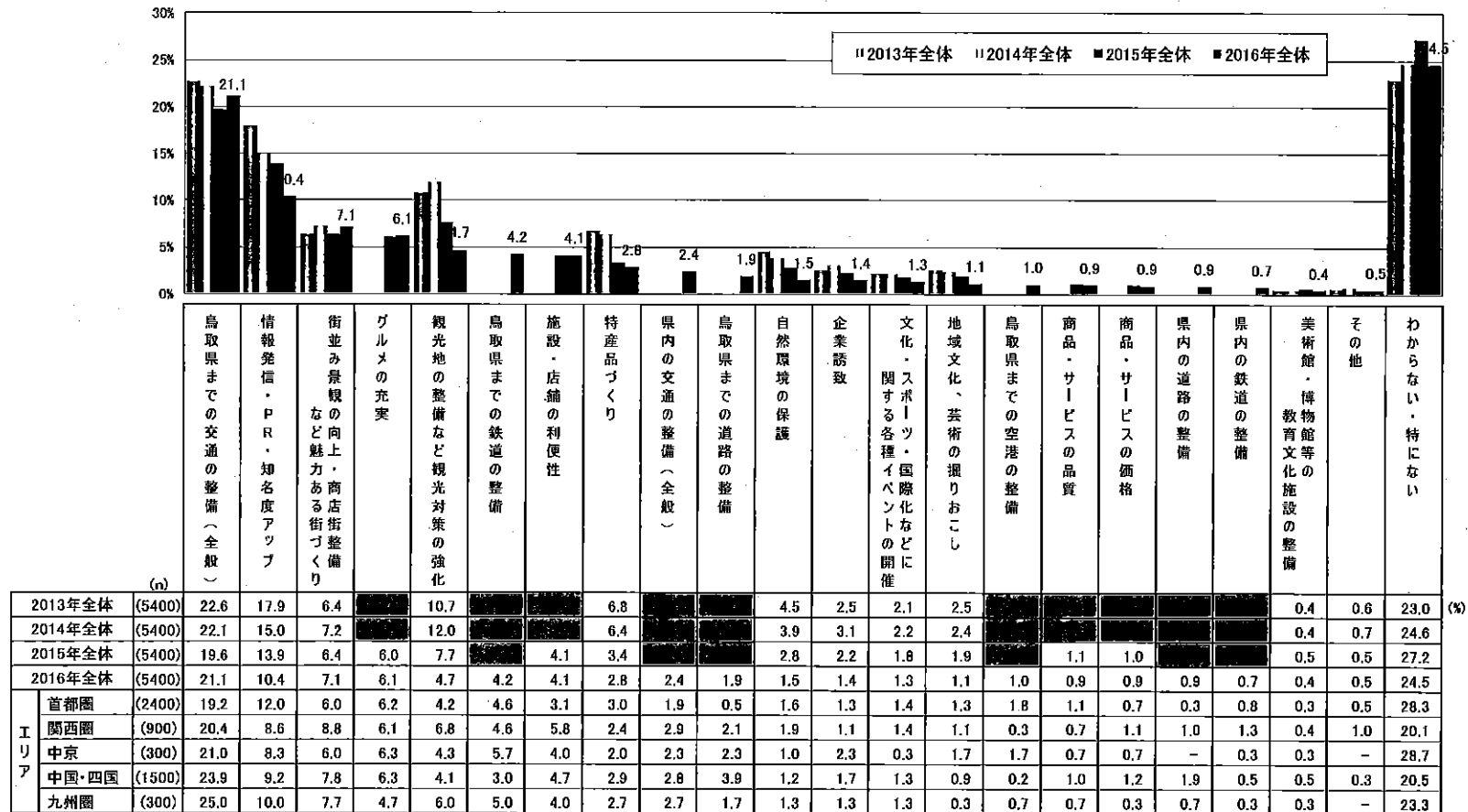
※魅力的だと思う「2016年全体」で降順ソート。

【対象者: 全員】(n=5400)

2-5. 鳥取県の魅力向上に必要な分野

- ◆ 「鳥取県までの交通の整備(全般)」(21.1%)がトップ。次ぐ「情報発信・PR・知名度アップ」(10.4%)は、前年より3.5pt減少している。
- ◆ ほぼ4人に1人が「わからない・特にない」(24.5%)と回答しているが、前年より2.7pt減少している。
- ◆ 「観光地の整備など観光対策の強化」(4.7%)が3pt減少している。その結果、「グルメの充実」(6.1%)が「観光地の整備など観光対策の強化」を上回り、全体の3位となっている。

Q14. 鳥取県の魅力を高めていくためには、どのような分野に力を入れていくことが必要だと思いますか。最も当てはまると思うものを1つ選んでください。(ひとつだけ)



※「2016年全体」で降順ソート。

※「美術館・博物館等の教育文化施設の整備」の2013年・2014年は、「教育文化施設の整備」で聴取。

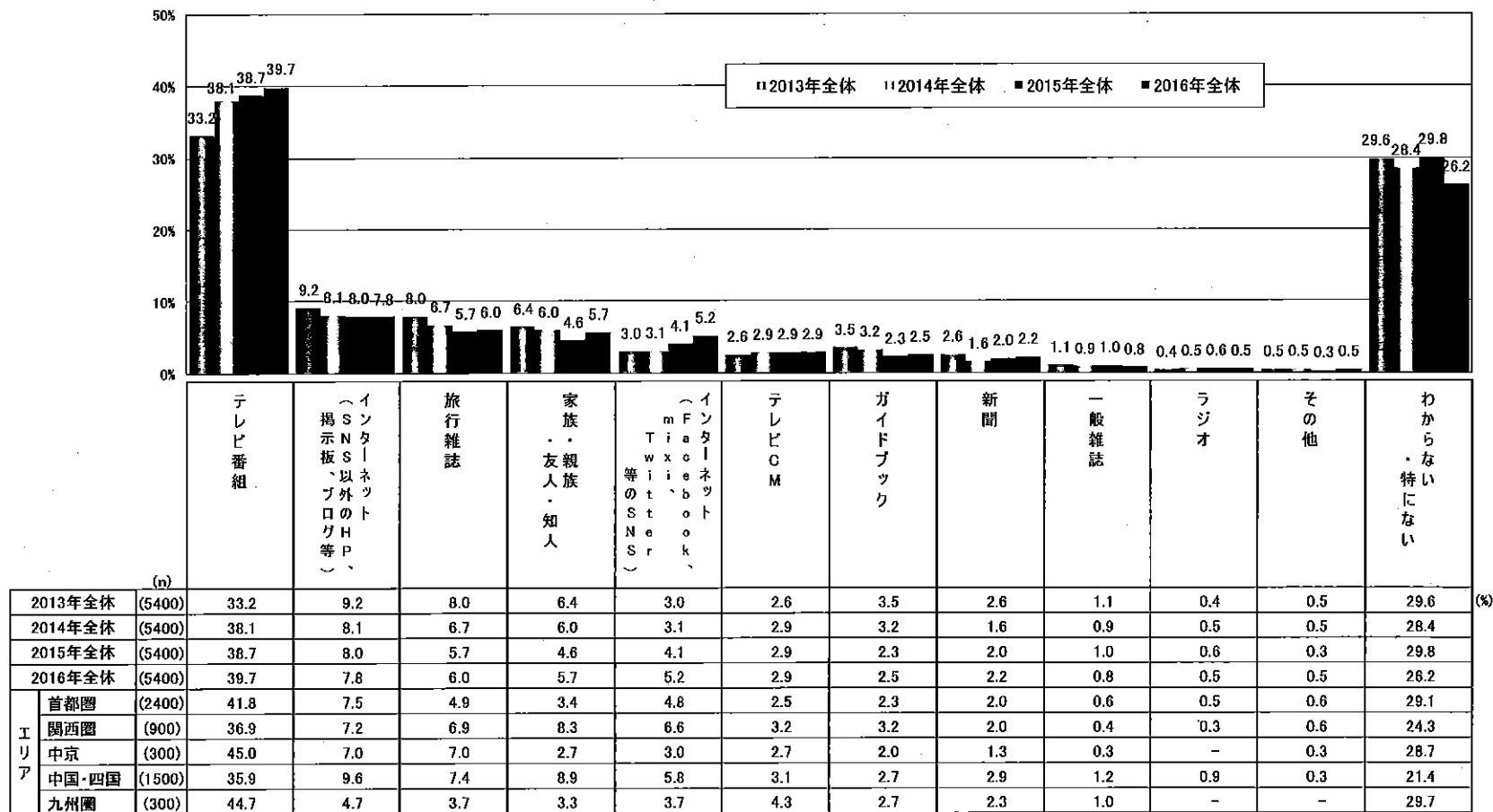
【対象者:全員】

※今回の交通の整備/鉄道の整備/道路の整備関連では、「鳥取県までの交通網の整備(全般)」について、2013年~2015年「交通網の整備」を掲載。

2-6. 鳥取県に関する主な情報入手経路

- ◆ 「テレビ番組」が40%を占めており、主要情報源となっている。以下、「インターネット(SNS以外のHP、掲示板、ブログ等)」「旅行雑誌」「家族・親族・友人・知人」(各6%)の順で続く。
- ◆ 「わからない・特にない」(26.2%)はやや減少(3.6pt減)した。

Q15. あなたは、鳥取県に関する情報を、どこから得ることが多いですか。最も主要なものを1つ選んでください。(ひとつだけ)



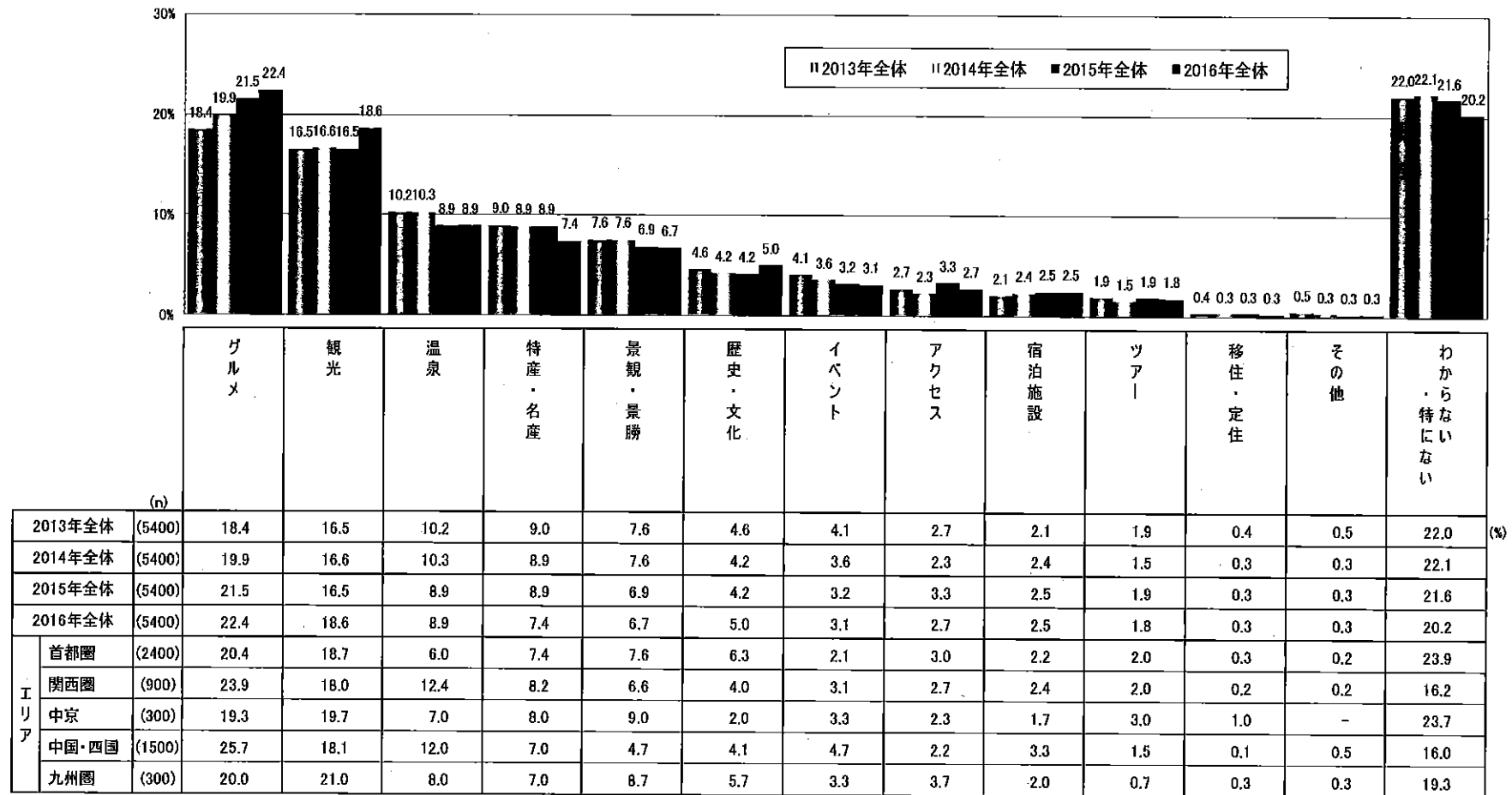
※「2016年全体」で降順ソート。

【対象者：全員】

2-7. 鳥取県について得たい情報

- ◆ 「グルメ」(22.4%)、が高く、次いで「観光」(18.6%)、「温泉」(8.9%)、「特産・名産」(7.4%)「景観・景勝」(6.7%)と続く。
- ◆ 時系列でみると、トップの「グルメ」はこの4年間で増加傾向にある。また、2位の「観光」も過去3年間に比べてやや高まった。3位以下はそれほど変化はみられない。なお、「わからない・特にない」(20.2%)はこの4年間で最も低い。

Q25. 鳥取県について、あなたは、今後どのような情報を得たいですか。最も当てはまると思うものを1つ選んでください。(ひとつだけ)







※「2016年全体」で降順ソート。

【対象者: 全員】

3. 鳥取県中部地震の被害について

※数表内の網掛け

	2016年全体値より10%以上高いもの
	2016年全体値より5%以上高いもの
	2016年全体値より5%以上低いもの
	2016年全体値より10%以上低いもの

但し、N=30未満は除く。
(以降のページも同様。)

3-1. 人・建物・農業・水産業への被害

- ◆ 7項目とも共通して、「わからない」との回答が6割前後を占めるほか、死者について「被害が大きい」(9.2%)、「被害が小さい」(21.9%)と、合わせて3割近くが回答しており、正確な被害状況が伝わっていないことが窺われる。
- ◆ 「被害が大きい」の割合は『建物の一部破損』(23%)がやや高い。「被害が小さい」を含めた“被害あり計”との意識でみると、『負傷者』『避難者』『建物の倒壊』『建物の一部破損』などが、いずれも4割前後を占めておりやや高い。

Q19. 平成28年10月21日に発生した鳥取県中部を震源とした最大震度6弱の地震の鳥取県内の被害に関して、各項目ごとに「[1] 被害が大きい」「[2] 被害が小さい」「[3] 被害はない」「[4] わからない」で、あなたが最も当てはまると思うものをそれぞれ選んでください。(それぞれひとつだけ)

	(n)	被害状況 (%)				被害あり計
		被害が大きい	被害が小さい	被害はない	わからない	
死者	(5400)	9.2	21.9	9.7	59.2	31.1
負傷者	(5400)	13.4	27.3	2.2	57.1	40.7
避難者	(5400)	20.5	19.4	2.2	57.9	39.9
建物の倒壊	(5400)	18.1	20.8	2.3	58.8	42.0
建物の一部破損	(5400)	23.1	19.3	1.9	55.7	42.4
農業への被害	(5400)	20.8	16.7	3.0	59.5	37.5
水産業への被害	(5400)	13.9	18.7	5.5	61.9	32.6

【対象者: 全員】

3-1. 人・建物・農業・水産業への被害（エリア別）

- エリア別でみると、7項目のいずれも共通して、近隣の中国・四国で“被害あり計”が、他エリアに比べて高い。特に『建物の一部破損』でその差が顕著である。
- 近隣の中国・四国では『建物の倒壊』や『建物の一部破損』に関して、「わからない」との回答が他エリアに比べて低い。

Q19. 平成28年10月21日に発生した鳥取県中部を震源とした最大震度6弱の地震の鳥取県内の被害に関して、各項目ごとに「[1] 被害が大きい」「[2] 被害が小さい」「[3] 被害はない」「[4] わからない」で、あなたが最も当てはまると思うものをそれぞれ選んでください。（それぞれひとつだけ）

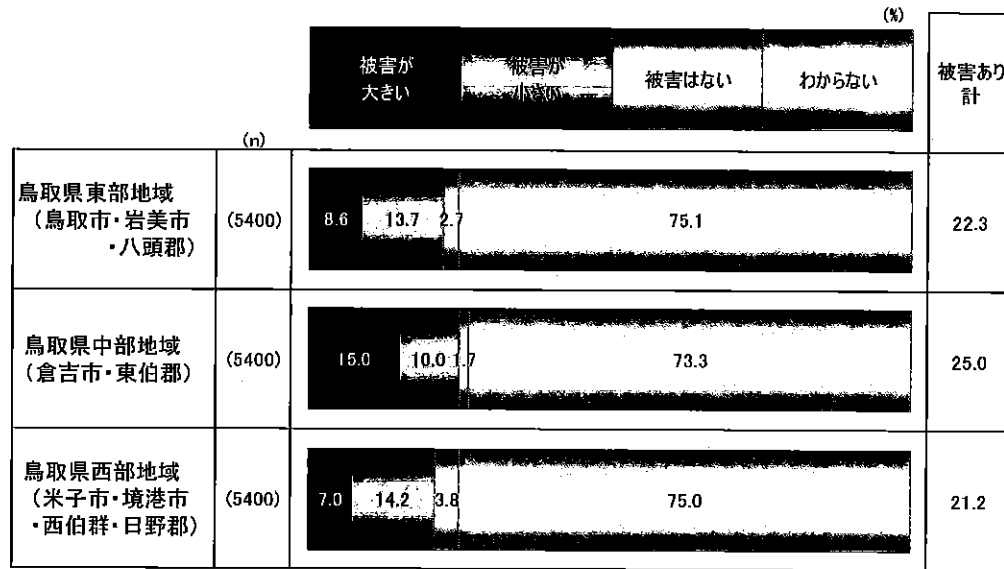
		① 死傷					② 負傷者					③ 避難者					④ 建物の倒壊				
エリア別	(n)	被害が大きい	被害が小さい	被害はない	わからない	被害あり計	被害が大きい	被害が小さい	被害はない	わからない	被害あり計	被害が大きい	被害が小さい	被害はない	わからない	被害あり計	被害が大きい	被害が小さい	被害はない	わからない	被害あり計
		2016年全体	(5400)	9.2	21.9	9.7	58.2	31.1	13.4	27.3	2.2	57.1	40.7	20.5	19.4	2.2	57.9	39.9	18.1	23.9	2.3
首都圏	(2400)	8.8	18.0	8.8	64.5	26.8	12.4	22.4	2.2	63.0	34.8	16.9	17.4	2.2	63.5	34.3	15.1	20.8	2.0	61.9	35.8
関西圏	(900)	10.6	23.4	8.9	57.1	34.0	15.4	29.2	1.4	53.9	44.7	22.2	21.2	1.6	55.0	43.4	19.3	26.3	1.3	53.0	45.7
中京	(300)	7.3	23.0	7.0	62.7	30.3	9.7	25.0	3.3	62.0	34.7	15.3	16.3	4.0	64.3	31.7	16.0	19.7	3.0	61.3	35.7
中国・四国	(1500)	9.9	27.3	12.0	50.9	37.1	15.7	34.1	2.3	47.9	49.8	27.1	22.2	2.3	48.5	49.3	23.5	28.3	2.5	54.3	51.8
九州圏	(300)	7.0	19.7	11.7	61.7	26.7	7.7	29.0	2.7	60.7	36.7	16.3	19.3	2.7	61.7	35.7	12.7	24.3	3.0	60.0	37.0
		⑤ 建物の一部破損					⑥ 農業への被害					⑦ 水産業への被害									
エリア別	(n)	被害が大きい	被害が小さい	被害はない	わからない	被害あり計	被害が大きい	被害が小さい	被害はない	わからない	被害あり計	被害が大きい	被害が小さい	被害はない	わからない	被害あり計					
		2016年全体	(5400)	23.1	19.3	1.9	55.7	42.4	20.8	16.7	3.0	59.5	37.5	13.9	18.7	5.5	61.9	32.6			
首都圏	(2400)	18.9	17.1	2.1	62.0	36.0	17.4	14.6	2.6	65.4	32.0	12.6	16.0	4.5	66.9	28.6					
関西圏	(900)	24.7	21.8	1.1	52.4	46.4	22.1	19.2	2.8	55.9	41.3	13.8	20.8	6.1	59.3	34.6					
中京	(300)	17.3	18.3	2.7	61.7	35.7	17.3	15.7	3.7	63.3	33.0	12.0	16.0	5.3	66.7	28.0					
中国・四国	(1500)	31.1	21.5	1.7	45.7	52.6	26.8	18.7	3.7	50.8	45.5	16.6	22.6	6.7	54.1	39.2					
九州圏	(300)	18.0	19.7	2.7	59.7	37.7	17.0	17.0	3.7	62.3	34.0	12.7	17.3	6.0	64.0	30.0					

【対象者：全員】

3-2. 地域別の被害

- ◆ 中部地域(倉吉市・東伯郡)の「被害が大きい」(15.0%)が他地域と比べて高いが、どの地域も「被害あり計」は21~25%となっており大きな地域差は見られず、「被害はない」はどの地域も2~4%と少ない。
- ◆ どの地域も「わからない」が7~8割を占める。
- ◆ 回答者のエリア別でみると、近隣の中国・四国において、3地域とも共通して、「被害あり計」の割合がやや高い。

Q20. 平成28年10月21日に発生した鳥取県中部を震源とした最大震度6弱の地震の鳥取県内の被害に関して、各地域ごとに「[1] 被害が大きい」「[2] 被害が小さい」「[3] 被害はない」「[4] わからない」で、あなたが最も当てはまると思うものをそれぞれ選んでください。(それぞれひとつだけ)



【対象者:全員】

(1) 鳥取県東部地域
(鳥取市・岩美市・八頭郡)

エリア別	(n)	被害が大きい (%)	被害が小さい (%)	被害はない (%)	わからない (%)	被害あり計 (%)
2016年全体	(5400)	8.6	13.7	2.7	75.1	22.3
首都圏	(2400)	7.1	11.7	2.1	79.1	18.8
関西圏	(900)	10.1	13.9	3.0	73.0	24.0
中京	(300)	7.0	11.3	2.3	79.3	18.3
中国・四国	(1500)	10.8	17.9	3.5	67.8	28.7
九州圏	(300)	6.7	10.3	2.3	80.7	17.0

(2) 鳥取県中部地域
(倉吉市・東伯郡)

エリア別	(n)	被害が大きい (%)	被害が小さい (%)	被害はない (%)	わからない (%)	被害あり計 (%)
2016年全体	(5400)	15.0	10.0	1.7	73.3	25.0
首都圏	(2400)	11.0	9.4	1.5	78.1	20.3
関西圏	(900)	18.4	11.2	1.3	71.0	27.7
中京	(300)	10.7	7.3	3.0	79.0	18.0
中国・四国	(1500)	21.9	11.1	2.1	66.0	32.9
九州圏	(300)	12.3	9.3	0.7	77.7	21.7

(3) 鳥取県西部地域
(米子市・境港市・西伯郡・日野郡)

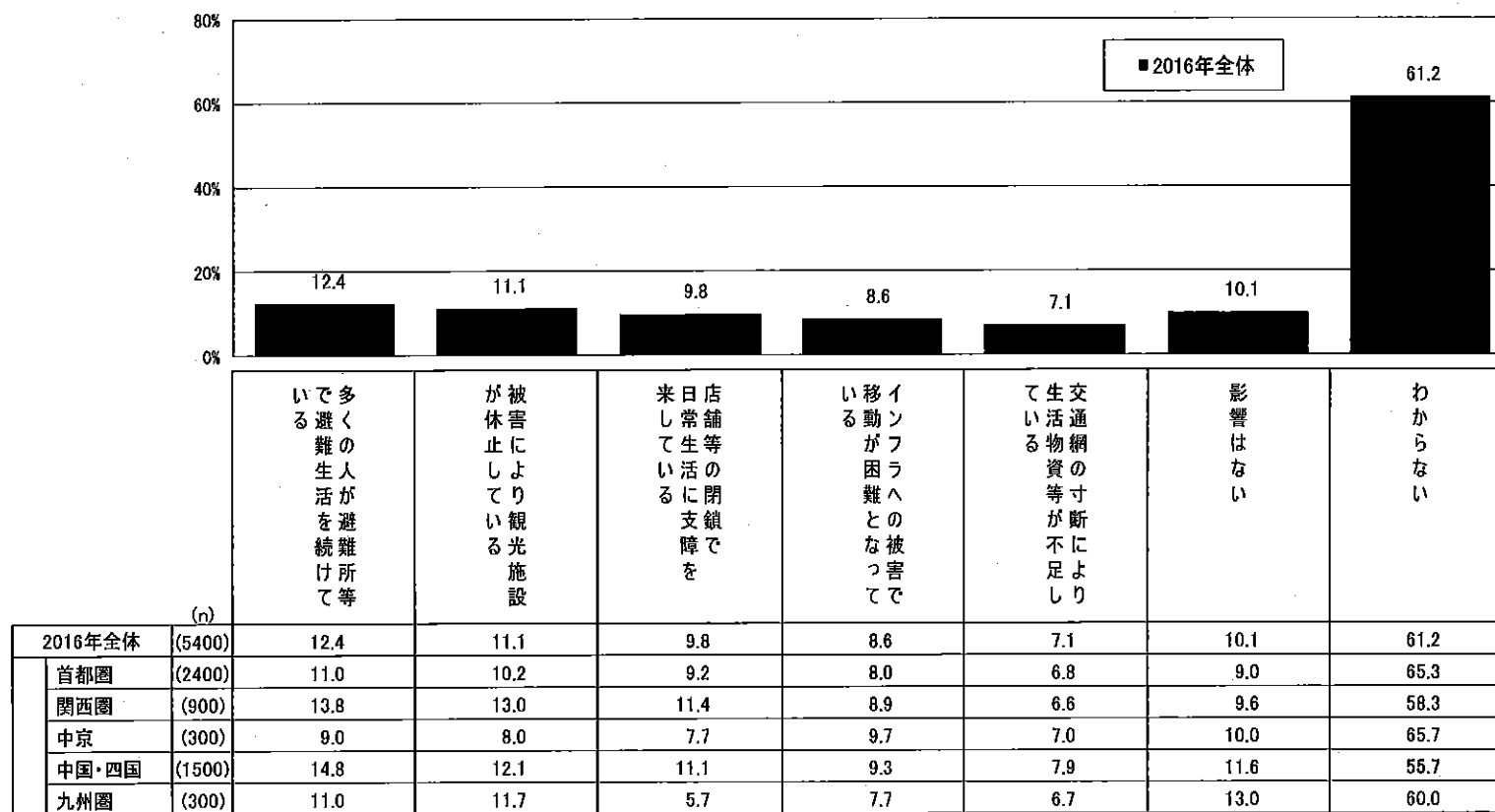
エリア別	(n)	被害が大きい (%)	被害が小さい (%)	被害はない (%)	わからない (%)	被害あり計 (%)
2016年全体	(5400)	7.0	14.2	3.8	75.0	21.2
首都圏	(2400)	6.6	11.5	3.0	79.0	18.1
関西圏	(900)	8.0	15.0	4.2	72.8	23.0
中京	(300)	6.0	12.0	3.3	78.7	18.0
中国・四国	(1500)	7.6	19.2	5.1	68.1	26.8
九州圏	(300)	5.0	11.3	3.0	80.7	16.3

【対象者:全員】

3-3. 被災地の現状

- ◆ 「わからない」(61.2%) が過半数強を占める。
- ◆ 「多くの人が避難所等で避難生活を続けている」(12%)、「被害により観光施設が休止している」(11%)等、いずれも1割前後にとどまる。
- ◆ エリア別でも違いはみられないが、中国・四国では「わからない」がやや低い。

Q21. 平成28年10月21日に発生した鳥取県中部を震源とした最大震度6弱の地震について、被災地の現状について、あなたが当てはまると思うものをすべて選んでください。(いくつでも)







※「2016年全体」で降順ソート。

【対象者: 全員】

4. 鳥取県への訪問意向について

※数表内の網掛け

	2016年全体値より10%以上高いもの
	2016年全体値より5%以上高いもの
	2016年全体値より5%以上低いもの
	2016年全体値より10%以上低いもの

但し、N=30未満は除く。
(以降のページも同様。)

4-1. 鳥取県への訪問意向

◆ 「行ってみたい」(71.9%) は昨年と同程度。この4年間では、ほぼ7割強で推移している。

- エリア別でみると、訪問意向率は中国・四国(76.9%)、関西圏(76.4%)が高く、中京(66.3%)が最も低かった。
- エリア×年代別では、各エリアとも比較的高年層ほど訪問意向が高めの傾向にあり、特に九州圏60代以上(84.0%)が最も高い。一方、中京10代・50代で全体を10pt下回っており、他層に比べて低い。

Q16. あなたは、鳥取県に行ってみたくらいと思いませんか。(ひとつだけ)

		(n)	行ってみたい (%)	行きたくない (%)
エリア×年代	2013年全体	(5400)	73.1	26.9
	2014年全体	(5400)	74.1	25.9
	2015年全体	(5400)	71.2	28.8
	2016年全体	(5400)	71.9	28.1
	首都圏	(2400)	67.9	32.1
	10代	(194)	63.9	36.1
	20代	(606)	65.8	34.2
	30代	(400)	64.5	35.5
	40代	(400)	71.5	28.5
	50代	(400)	70.0	30.0
	60代以上	(400)	70.5	29.5
	関西圏	(900)	76.4	23.6
	10代	(128)	74.2	25.8
	20代	(172)	75.0	25.0
	30代	(150)	80.0	20.0
	40代	(150)	78.0	22.0
	50代	(150)	76.7	23.3
	60代以上	(150)	74.7	25.3
	中京	(300)	66.3	33.7
	10代	(50)	56.0	44.0
20代	(50)	68.0	32.0	
30代	(50)	68.0	32.0	
40代	(50)	78.0	22.0	
50代	(50)	60.0	40.0	
60代以上	(50)	68.0	32.0	

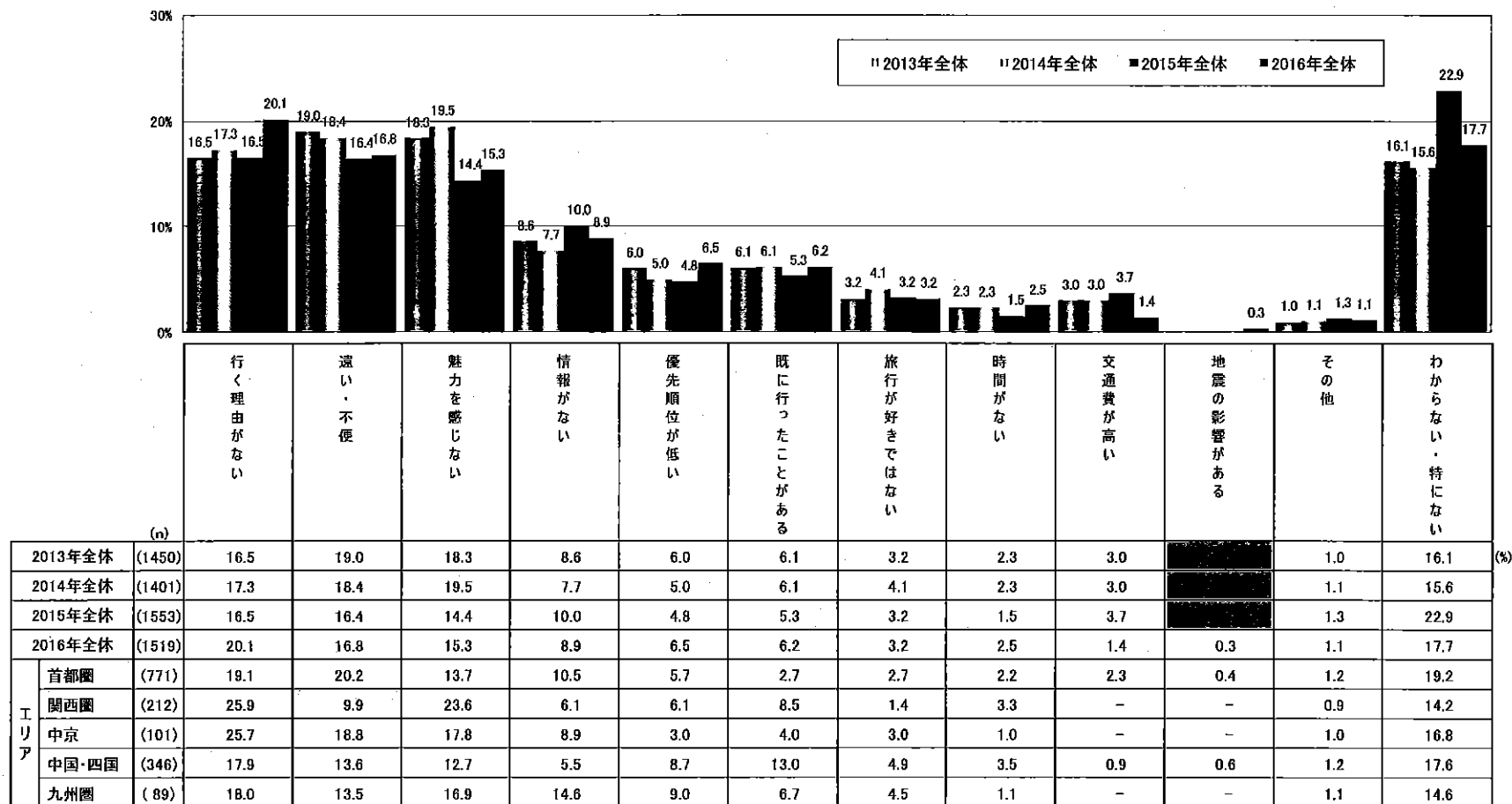
		(n)	行ってみたい (%)	行きたくない (%)
エリア×年代	2013年全体	(5400)	73.1	26.9
	2014年全体	(5400)	74.1	25.9
	2015年全体	(5400)	71.2	28.8
	2016年全体	(5400)	71.9	28.1
	中国・四国	(1500)	76.9	23.1
	10代	(57)	71.9	28.1
	20代	(396)	74.0	26.0
	30代	(297)	76.1	23.9
	40代	(250)	81.2	18.8
	50代	(250)	76.0	24.0
	60代以上	(250)	80.4	19.6
	九州圏	(300)	70.3	29.7
	10代	(27)	59.3	40.7
	20代	(73)	71.2	28.8
	30代	(50)	64.0	36.0
40代	(50)	68.0	32.0	
50代	(50)	70.0	30.0	
60代以上	(50)	84.0	16.0	

【対象者:全員】

4-2. 鳥取県への非訪問意向理由

- ◆ 『「行きたくない」と回答した人の理由をみると、「行く理由がない」(20.1%)、「遠い・不便」(16.8%)、「魅力を感じない」(15.3%)がトップ3。
- ◆ 時系列でみると、トップ3は同様の傾向にある。その中で「行く理由がない」が昨年に比べて4pt上昇しており、この4年間では最も高い。それ以外は昨年とあまり変わらないが、昨年大きく増加した「わからない・特にない」(17.7%)は5.2pt減少し、2013年・2014年の水準に戻った。
- エリア別でみると、トップ理由の「行く理由がない」は関西圏や中京でやや高い。そのうち関西圏では「魅力を感じない」も他エリアに比べてやや高い。

Q17. ■ 前問で「行きたくない」とお答えの方にお伺いします ■ その理由は何ですか。最も当てはまると思うものを1つ選んでください。(ひとつだけ)



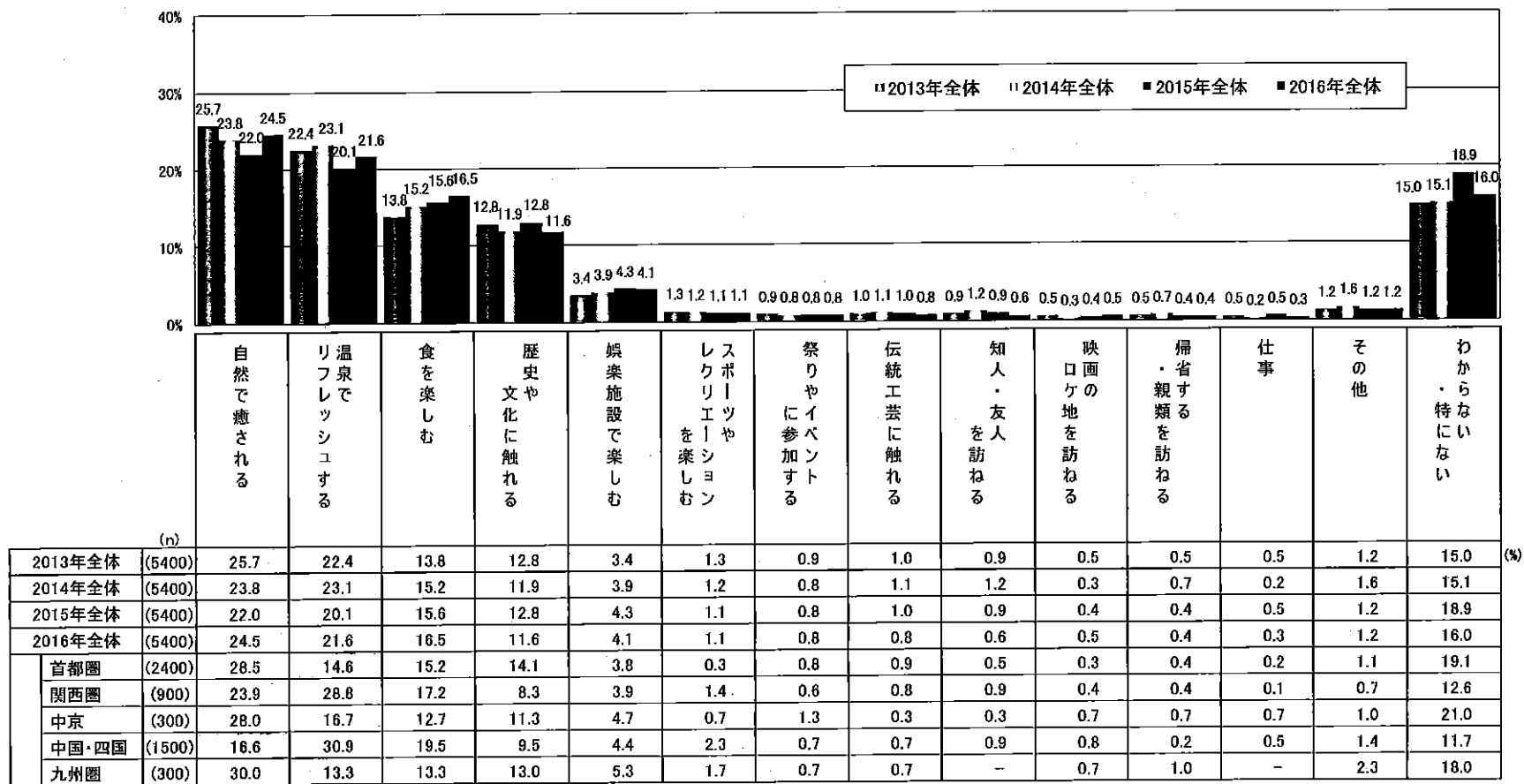
※「2016年全体」で降順ソート。

【対象者：鳥取県への非訪問意向者】

4-3. 今後の鳥取県への訪問時の主要目的

- ◆ 「自然で癒される」(24.5%)、「温泉でリフレッシュする」(21.6%)、「食を楽しむ」(16.5%)がトップ3。次いで「歴史や文化に触れる」(11.6%)が続き、上位4項目だけで、全体の3/4(74%)を占める。
- ◆ 時系列で見ると、主要目的のうち、トップ2の「自然で癒される」「温泉でリフレッシュする」は回復傾向。また、「食を楽しむ」は年々微増傾向にある。
- ▶ エリア別にみると、九州圏で「自然で癒される」、関西圏、中国・四国は共通して「温泉でリフレッシュする」がそれぞれ3割程度とやや高く、主要目的はやや異なる。

Q18. 今後、鳥取県を訪れるとした場合、何を目的に訪れたいですか。最も主要なものを1つ選んでください。(ひとつだけ)



※ 「2016年全体」で降順ソート。

【対象者: 全員】

4-4. 鳥取県への訪問意向ランキング順位

- ◆ ランキングを4区分で見ると、最も下位の「31～47位」が38%で最多。以下、「21～30位」(32%)、「11～20位」(22%)、「1～10位」(8%)と、ランキングが上昇するにつれて、スコアは減少傾向。
- ◆ 時系列で見ると、2014年度以降ではランキングは低下傾向。「1～10位」は微減傾向で、逆に「31～47位」が年々上昇し、2013年レベルに戻った。
 - エリア別にみると、ランキング下位の「31～47位」の割合は中京でやや高い。
 - エリア×年代別では、「1～10位」の割合は、中国・四国では年代が上がるほど上昇傾向。九州圏60代以上では「11～30位計」が8割近くを占めており、他層より高いのが目立つ。一方、九州圏30・40代、中京50代は共通して「31～47位」が半数程度を占めておりやや高い。

Q22. あなたが行ってみたい都道府県を、1位から47位までランキング順位付けした場合、鳥取県のランキングは概ねどのあたりですか。最も当てはまると思うものを1つ選んでください。(ひとつだけ)

		(n)	1～10位 (%)	11～20位 (%)	21～30位 (%)	31～47位 (%)
2013年全体		(5400)	20.7	28.6	39.0	
2014年全体		(5400)	28.2	30.4	28.9	
2015年全体		(5400)	25.8	30.6	32.9	
2016年全体		(5400)	21.9	31.7	37.9	
エリア×年代	首都圏	(2400)	19.8	31.5	42.3	
	10代	(194)	13.9	34.0	45.9	
	20代	(606)	21.0	31.8	41.1	
	30代	(400)	20.0	31.8	43.0	
	40代	(400)	20.3	32.5	40.8	
	50代	(400)	17.5	31.5	44.8	
	60代以上	(400)	22.5	28.8	41.0	
	関西圏	(900)	25.9	32.1	31.7	
	10代	(128)	24.2	35.9	31.3	
	20代	(172)	26.2	35.5	29.7	
	30代	(150)	20.0	37.3	31.3	
	40代	(150)	25.3	26.0	33.3	
	50代	(150)	27.3	29.3	35.3	
	60代以上	(150)	32.0	28.7	29.3	
	中京	(300)	19.0	30.0	43.3	
	10代	(50)	12.0	34.0	44.0	
	20代	(50)	16.0	34.0	40.0	
	30代	(50)	24.0	26.0	44.0	
	40代	(50)	24.0	30.0	38.0	
	50代	(50)	8.0	34.0	48.0	
60代以上	(50)	21.0	30.0	22.0	46.0	

		(n)	1～10位 (%)	11～20位 (%)	21～30位 (%)	31～47位 (%)
2013年全体		(5400)	20.7	28.6	39.0	
2014年全体		(5400)	28.2	30.4	28.9	
2015年全体		(5400)	25.8	30.6	32.9	
2016年全体		(5400)	21.9	31.7	37.9	
エリア×年代	中国・四国	(1500)	23.8	32.2	32.8	
	10代	(57)	14.0	42.1	38.6	
	20代	(396)	25.0	35.4	32.3	
	30代	(297)	23.6	33.3	34.3	
	40代	(250)	25.6	28.8	32.8	
	50代	(250)	19.6	28.8	37.2	
	60代以上	(250)	26.8	30.4	26.0	
	九州圏	(300)	20.7	31.7	42.0	
	10代	(27)	7.4	40.7	44.4	
	20代	(73)	19.2	34.2	43.8	
30代	(50)	10.0	34.0	52.0		
40代	(50)	22.0	18.0	50.0		
50代	(50)	24.0	24.0	44.0		
60代以上	(50)	36.0	42.0	18.0		

【対象者:全員】

4-5. 鳥取県に対する満足度

- ◆ 「非常に満足」(5.5%)、「概ね満足」(30.9%)を合わせた36%が「満足」と評価。全体的には「普通」(58.8%)が大半を占めた。
- ◆ 時系列で見ると、「満足計」の割合は昨年から2pt上昇し、この4年間で最も高い。
 - エリア別にみると、九州圏の満足度が他のエリアに比べて10pt以上低い。(九州圏では、「普通」評価が7割弱を占めており、他エリアよりも多かった。)
 - エリア×年代別では、関西圏10・20代の満足度が高く、特に10代で6割以上と顕著。

Q23. ■鳥取県を「訪れたことがある」又は鳥取県に「居住したことがある」とお答えの方にお伺いします■
 他の都道府県と比べ鳥取県(県民・施設・店舗等)のあなたに対する「おもてなし」はいかがでしたか。最も当てはまると思うものを1つ選んでください。(ひとつだけ)

		(%)				満足計		
(n)		非常に満足	概ね満足	普通	概ね不満	非常に不満		
2013年全体	(2634)	3.4	30.9	63.9	4.4	0.9	30.8	
2014年全体	(2684)	3.8	29.7	62.3	3.1	1.0	33.6	
2015年全体	(2610)	4.7	29.8	60.2	3.4	1.2	34.3	
2016年全体	(2568)	5.5	29.9	58.8	3.9	0.9	36.4	
エリア×年代	首都圏	(651)	5.4	28.6	57.9	4.6	1.1	36.4
	10代	(17)	11.8	29.2	47.1	0	0	52.9
	20代	(126)	9.5	29.3	50.0	2.0	3.2	42.9
	30代	(86)	7.0	28.7	55.8	3.5	0	40.7
	40代	(102)	4.9	28.4	58.8	2.1	2.0	36.3
	50代	(129)	4.7	28.6	64.3	0.7	0	30.2
	60代以上	(191)	12.1	30.9	60.2	3.8	0.5	33.0
	関西圏	(604)	6.6	29.2	55.5	4.6	1.2	38.9
	10代	(53)	17.0	40.2	32.1	3.4	0	60.2
	20代	(103)	9.7	28.7	43.7	3.9	1.0	50.5
	30代	(93)	7.5	28.2	54.8	4.3	2.2	38.7
	40代	(116)	7.8	28.9	58.6	3.9	0.9	33.6
	50代	(110)	3.6	29.1	62.7	3.6	0.9	32.7
	60代以上	(129)	10.8	27.9	65.9	3.9	1.6	28.7
	中京	(100)	7.0	29.0	58.0	3.1	1.0	38.0
	10代	(13)	38.5	28.6	23.1	0	0	76.9
20代	(11)	0	54.5	36.4	0	0	54.5	
30代	(14)	0	14.3	85.7	0	0	14.3	
40代	(24)	4.2	28.2	66.7	0	0	33.3	
50代	(18)	5.6	22.2	66.7	5.6	0	27.8	
60代以上	(20)	0	35.0	55.0	10.0	0	35.0	

		(%)				満足計		
(n)		非常に満足	概ね満足	普通	概ね不満	非常に不満		
2013年全体	(2634)	3.4	30.9	63.9	4.4	0.9	30.8	
2014年全体	(2684)	3.8	29.7	62.3	3.1	1.0	33.6	
2015年全体	(2610)	4.7	29.8	60.2	3.4	1.2	34.3	
2016年全体	(2568)	5.5	29.9	58.8	3.9	0.9	36.4	
エリア×年代	中国・四国	(1101)	5.4	28.6	60.1	3.2	0.7	36.0
	10代	(36)	11.1	28.6	52.8	3.6	0	41.7
	20代	(262)	8.0	29.0	59.8	3.8	0.4	45.0
	30代	(198)	3.5	29.3	60.1	3.0	0	35.9
	40代	(186)	7.5	27.2	62.9	3.9	1.6	31.7
	50代	(198)	4.5	27.3	65.2	2.0	1.5	31.3
	60代以上	(221)	12.7	29.9	65.6	1.1	0.5	32.1
	九州圏	(112)	12.5	29.5	68.8	3.4	0	32.0
	10代	(5)	0	20.0	60.0	0	0	40.0
	20代	(24)	4.2	28.7	62.5	3.7	0	20.8
	30代	(14)	0	28.6	42.9	2.9	0	50.0
40代	(17)	0	23.5	64.7	0	0	35.3	
50代	(22)	0	18.2	81.8	4.5	0	13.6	
60代以上	(30)	0	26.7	80.0	0	0	20.0	

【対象者：鳥取県に訪問・居住経験者】